IBM Cognos PowerPlay
バージョン **11.0**

管理ガイド

IBM

©

本資料は、IBM Cognos Analytics バージョン 11.0.0 を対象として作成されています。また、その後のリリースも対象となる場合があります。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM Cognos PowerPlay
Version 11.0
Administration Guide

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

著作権

Licensed Materials - Property of IBM

© Copyright IBM Corp. 2005, 2017.

IBM、IBM ロゴ および ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標または登録商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml の Copyright and trademark information をご覧ください。

以下の会社名、製品名およびサービス名等は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

- Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。
- インテル、Intel、Intel ロゴ、Intel Inside、Intel Inside ロゴ、Centrino、Intel Centrino ロゴ、Celeron、Intel Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、および Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Linux は Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。
- UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。
- Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft 製品のスクリーン・ショットは、Microsoft 社の許可を得て使用しています。

目次

はじめに v

第 1 章 Cognos PowerPlay バージョン 11.0 1
以前のバージョンの Cognos PowerPlay 1

第 2 章 IBM Cognos PowerPlay の管理 3
IBM Cognos PowerPlay Administration の開始 3
分散インストールに関する考慮事項. 3
PowerPlay サービスの詳細設定の構成. 4
詳細設定の構成 5
チーム用コンテンツ・フォルダーの PowerPlay キューブおよびレポートの設定のカスタマイズ 6
個人用コンテンツ・フォルダーの PowerPlay キューブおよびレポートの設定のカスタマイズ 7
PowerPlay Studio の外観の変更. 8
ドリルスルーの有効化 9
ツールバーのカスタマイズ 14
キューブの設定 15
レポートの設定 22

第 3 章 Cognos PowerPlay サンプルの設定 27
補足サンプルのダウンロード 27
サンプル PowerCubes へのデータ・ソース接続の作成 28
サンプル配布のインポート 29
サンプル・レポートのテスト 30

第 4 章 ログ記録の設定 31
IBM Cognos Analytics のログ記録の設定 31
IBM Cognos Analytics ログ・メッセージのターゲットの指定 31
PowerPlay サービスのログ記録の有効化 31
PowerPlay キューブおよびレポート処理のログ記録の有効化 33
サンプル監査モデルと監査レポート 33
IBM Cognos PowerPlay のログ・メッセージのデータ・スキーマ 34

第 5 章 PowerPlay Batch Administration 43
ppadmtool ユーティリティー 43
表記規則 45
コマンド 46
サポート対象外のコマンド 49
変更されたコマンド 49
PowerPlay サーバー・バッチ管理ユーティリティーに対して SSL を使用するための設定要件 50
SSL 証明書を抽出する. 50
証明書の鍵ストアを作成する 50
バッチ管理ユーティリティーのパラメーターを変更する 51

付録 A. トラブルシューティング 53
IBM Cognos PowerPlay Administration での作業に関する問題. 53
システム・ステータスまたは処理状況のリストに PowerPlay 要求が表示されない. 53
PowerPlay の処理状況の一部がログに記録されない 53
PowerCube のファイル名に簡体字中国語の文字が含まれる場合の接続エラー 53
IBM Cognos PowerPlay Studio での作業に関する問題 54
PowerPlay Studio で計算を挿入するとエラーが発生する 54

スケジュールされたレポートの E メールでリンクを開いたときにエラーが発生する 54
日本語でグラフ・タイトルを編集中にページ・エラーが発生する 54
長い文字列が途中で切り詰められる 54
グラフに表示されるヘブライ語のテキスト 54
PDF へのエクスポート後に円グラフにある"その他"カテゴリーのラベルが実際のカテゴリー名に変更される . . 55
表示が読めないあるいは正しく表示されない 55
PowerPlay Studio レポートを保存するときに Cognos Application Firewall のエラーが発生する 55

付録 B. 日本語 Shift-JIS の文字マッピング 57
Shift-JIS 文字から Unicode へのマッピングの再設定 59
手作業による"shift-jis.xml"ファイルの編集 61
Shift-JIS 文字の移行時の問題のトラブルシューティング 62
"shift-jis.xml"ファイルがマッピングに作用していないように見える 62
移行中にマルチバイトに関するエラー・メッセージが表示される 62
レポート用のキューブ・マッピングが見つからない 62
異なる移行ソースを使用すると、文字が正しく移行されない 63
UNIX で ASCII 以外の文字を使用したキューブを移行する場合の問題 63
同じ名前の Content Manager レポート・オブジェクトがすでに存在するために移行できない 65

特記事項 67

索引 71

はじめに

このドキュメントは IBM® Cognos® PowerPlay® の使用にあたって参照してください。

このドキュメントについて

このドキュメントでは、IBM Cognos Analytics の PowerPlay の管理に役立つ段階的な手順やその他の情報について説明します。

対象読者

このドキュメントを有効活用するには、IBM Cognos PowerPlay の管理、データベースやレポート作成の概念、および使用する情報技術とセキュリティーのインフラストラクチャーについて理解している必要があります。

情報の入手方法

Web で製品資料 (各国語版のすべての資料を含む) を入手するには、IBM Knowledge Center (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter) にアクセスしてください。

ユーザー補助機能

現在この製品では、ユーザー補助機能はサポートされていません。ユーザー補助機能とは、動作が制限されている方、視力の限られた方など、身体の不自由な方に製品をご使用いただけるように支援する機能のことです。

将来の見通しに関する記述

このドキュメントには製品の現在の機能が記載されています。現在利用できない項目への言及が含まれる場合もありますが、将来的に使用可能になることを示唆するものではありません。このような言及は、なんらかの資料、規約、または機能を提供するという誓約、保証、または法的義務ではありません。特性や機能の開発、公開、およびその時期に関しては、引き続き IBM が単独裁量権を有します。

サンプルに関する特記事項

Sample Outdoors 社、Great Outdoors 社、GO 販売、Sample Outdoors または Great Outdoors の名前のすべてのバリエーション、および Planning サンプルでは、IBM および IBM のお客様向けのサンプル・アプリケーションを開発するために使用されるサンプル・データにより、架空の企業活動が描出されています。これらの架空データには、販売取引、商品流通、財務、および人事のサンプル・データが含まれます。実在する名称、住所、連絡先電話番号、取引額とは一切関係がありません。また、サンプル・ファイルの中には、手動またはコンピューターで生成された架空のデータ、学術的ソースまたは公共のソースを基に編集された実際のデータ、版権所有者の許可を得て使われているデータなどが、サンプル・アプリケーションを開発するためのサンプル・データとして使用されている場合もあります。参

照される製品名は、それぞれの所有者の商標である可能性があります。許可なく複製することは禁止されています。

第 1 章 Cognos PowerPlay バージョン 11.0

IBM Cognos PowerPlay バージョン 11.0 では、以前のバージョンの IBM Cognos PowerPlay のレポート作成者、アナリスト、およびユーザーになじみの深いデータ分析機能および閲覧機能を IBM Cognos Analytics 環境で使用することができます。

Cognos Analytics との統合により、既存の PowerPlay アプリケーションおよびユーザー・エクスペリエンスを保持しながら、PowerPlay で Cognos Analytics の機能を活用することができます。Cognos Analytics が提供する追加の機能により、PowerPlay ユーザーは新しい環境で生産性を最大にすることができます。

以前のバージョンの Cognos PowerPlay

IBM Cognos PowerPlay の歴史は長いので、以前のバージョンをまだ使用しているユーザーもいます。

Cognos PowerPlay バージョン 11.0 には、**Series 7 Migration Components** というコンポーネントが含まれています。これは、IBM Cognos Series 7 PowerPlay を IBM Cognos Business Intelligence (現在のIBM Cognos Analytics) バージョン 10.2.x に移行するために使用します。

移行プロセスおよび Series 7 PowerPlay と Cognos PowerPlay バージョン 10.2.x の違いについては、IBM Cognos Analytics Knowledge Center バージョン 10.2.2 (https://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSEP7J_10.2.2) の「*IBM Cognos PowerPlay* 移行および管理ガイド」を参照してください。

第 2 章 IBM Cognos PowerPlay の管理

IBM Cognos PowerPlay は、IBM Cognos Analytics ポータルからアクセスできる IBM Cognos Administration を使用して管理します。

IBM Cognos PowerPlay Administration の開始

設定オプションや Studio/Authoring ツール・オプションなどの、IBM Cognos Analytics に関するすべての実行時設定は、IBM Cognos Administration を使用して管理します。IBM Cognos Administration は、セキュリティー、サーバー設定、および配布オプションの管理に利用できる Web ベースのツールです。

始める前に

IBM Cognos Administration にアクセスするには、管理者権限があるユーザーとしてログオンする必要があります。

手順

1. IBM Cognos Analytics ポータルに接続します。
2. 「ようこそ」ページで、「管理」 > 「管理コンソール」をクリックします。
3. 「**PowerPlay**」タブをクリックします。

分散インストールに関する考慮事項

IBM Cognos Administration のオプションを使用すると、パフォーマンス向上のために分散環境をカスタマイズできます。

サーバー・グループ

複数のディスパッチャーが存在する環境では、サーバー・グループを作成して高度なディスパッチャー・ルーティングを利用できます。

サーバー・グループを作成する場合は、少なくとも 1 つの PowerPlay ディスパッチャーを名前付きサーバー・グループに含めないようにしてください。これは、すべての PowerPlay 要求が正常に処理されるようにするための必須の要件です。

詳細については、「*IBM Cognos Analytics* 管理およびセキュリティー・ガイド」の高度なディスパッチャー・ルーティングに関するセクションを参照してください。

PowerPlay サービスの詳細設定の構成

詳細設定を使用して、IBM Cognos PowerPlay 環境をカスタマイズできます。

表 1. *PowerPlay* サービスの詳細設定

IBM Cognos Series 7 の機能	**Cognos Analytics** 詳細設定 **(**パラメーターおよび値**)**
限定クライアント接続の最大数 リモート・クライアントの最大接続数を指定します。	SRV.Options. MaxRestrictClientConnections 例:「IN,50」
限定接続待機のタイムアウト (分) アイドルのリモート接続が維持される時間を分単位で設定します。	SRV.Options.RestrictClientTimeout 例:「IN,60」
PowerPlay Web Viewer - 一時ファイルの削除間隔 (日)	SRV.PWR.TempFileDeletionTime 例:「IN,30」
PowerPlay Web Explorer - 一時ファイルの削除間隔 (秒)	SRV.PWQ.TempFileDeletionTime 例:「IN,900」
Dynamic Style Sheets Compile スタイル・シートを事前にコンパイルするかどうかを指定します。パフォーマンスを向上させるには、この設定を常に有効にする必要があります。作成中のスタイル・シートの表示内容を確認する場合に限り、この設定を無効にします。	SRV.Options. UseCompiledStylesheets 使用できるオプションは、有効にする場合は「IN,1」、無効にする場合は「IN,2」です。
PowerPlay PDF ユーザー補助機能	PowerPlayServer_Accessible_PDF 使用できるオプションは、有効にする場合は「IN,1」、無効にする場合は「IN,2」です。
監査レベル 監査ログ記録の詳細レベルを指定します。使用できるオプションは、「なし」、「概要」、または「詳細」です。	SRV.Options.AuditLevel Cognos Analytics では、次のような設定になります。 IN,0: 監査ログ記録を「なし」に設定する IN,1: 監査ログ記録を「概要」に設定する IN,2: 監査ログ記録を「詳細」に設定する
各監査ログ・ファイルの最大サイズ (KB)	SRV.Audit.MaxFileSize 例:「IN,256」

表 1. *PowerPlay* サービスの詳細設定 (続き)

IBM Cognos Series 7 の機能	**Cognos Analytics** 詳細設定 **(**パラメーターおよび値**)**
PowerPlay Server - PPSDSRemote ポート IBM Cognos Series 7 では、PPDSRemote ポート設定が"cer*n*.ini"ファイルに含まれています。	SRV.PPDSRM.ServerPort 例:「IN,8020」 このパラメーターは、PowerPlay Client と PowerPlay サーバーとの通信で使用されるポートを制限するために使用します。例えば、環境にファイアウォールが含まれる場合に使用します。
CSV へのエクスポートに使用する区切り文字 IBM Cognos Series 7 では、CSV ファイルは、PowerPlay Enterprise Server コンピューターのネイティブのエンコード方式で作成されます。CSV ファイルの区切り文字は、現在のロケールのリスト・セパレーター (通常はコンマ) に依存していました。	SRV.Options.CSVDelimeter IBM Cognos PowerPlay では、CSV へのエクスポートにタブ区切りの出力がデフォルトで使用されます。 区切り文字をコンマ (,) に変更するには、「SRV.Options.CSVDelimeter TX,,」を使用します。 区切り文字をセミコロン (;) に変更するには、「SRV.Options.CSVDelimeter TX,;」を使用します。

詳細設定の構成

IBM Cognos Administration で、IBM Cognos PowerPlay サービスの詳細設定を構成します。

手順

1. IBM Cognos Analytics ポータルで、「管理」 > 「管理コンソール」をクリックして IBM Cognos Administration を開きます。
2. 「ステータス」タブの「システム」をクリックします。
3. 「すべてのサーバー」の横にある矢印をクリックし、「サービス」をクリックして、「**PowerPlay**」をクリックします。
4. 「**PowerPlay** サービス」の横にある矢印をクリックし、「プロパティーを設定」をクリックします。
5. 「設定」タブをクリックします。
6. 「値」列で、「詳細設定」の「編集」をクリックします。
7. 「親エントリーから取得した設定をオーバーライド」チェック・ボックスをオンにします。
8. 「パラメーター」列でパラメーター名を入力し、「値」列で設定する値を入力します。

   数値の場合、「値」列の書式は「IN,#」です。「#」は設定に関連付ける値です。例えば、IBM Cognos Analytics の監査ログ・ファイルの最大サイズを 256

KB に設定するには、「パラメーター」に「**SRV.Audit.MaxFileSize**」と入力し、「値」に「**IN,256**」と入力する必要があります。テキストの場合 (CSV ファイルへのエクスポートに使用する区切り文字など)、「値」列の書式は「TX,#」です。「#」はテキストを表す記号です。

チーム用コンテンツ・フォルダーの PowerPlay キューブおよびレポートの設定のカスタマイズ

IBM Cognos PowerPlay アプリケーションの外観、パフォーマンス、機能をカスタマイズするオプションには、さまざまなものがあります。

ユーザー・グループごとの用途に合わせて、フォルダー、パッケージ、キューブ、レポート単位で、「チーム用コンテンツ」のコンテンツの設定をカスタマイズできます。特定のユーザーが使用する「個人用コンテンツ」のコンテンツの設定をカスタマイズすることもできます。

デフォルトでは、オブジェクトは親からの設定を引き継ぎます。例えば、パッケージは親フォルダーからキューブとレポートの設定を引き継ぎます。親の設定とは異なる設定を持たせる必要がある場合には、キューブまたはレポートごとに設定を変更することもできます。

カスタマイズする内容としては、次のようなものが考えられます。

- 個別にインターフェース・オプションを設定して、PowerPlay Studio の外観を変更する。
- ドリルスルーを有効にして、現在表示しているレポートに関連する情報を表示できるようにする。
- ユーザーが使用できるオプションを限定するため、または新しいツールバー・オプションを作成するために、ツールバーをカスタマイズする。

キューブとレポートの設定の中には、セキュリティー上の考慮が必要なものがあります。

- **PDF Rendering Viewer**

  この設定を「**Cognos Viewer**」から「**PowerPlay Studio Report Viewer**」に変更すると、PDF 出力は IBM Cognos Analytics Content Store とは別の場所に、暗号化されずに保存されます。IBM Cognos Series 7 との互換性を維持するために、このような処理になっていますが、出力内容に応じたセキュリティー・レベルを適用する必要があれば、別途、セキュリティー上の管理が必要になります。
- **HTML** エンコードのユーザー指定タイトル

  この設定を「有効」から「無効」に変更すると、レポートを表示したときに実行される可能性がある不正なスクリプトが、レポートのタイトルに挿入される恐れがあります。

手順

1. PowerPlay Administration の「設定可能なオブジェクト」リストでアイテムを選択します。

2. プロパティーを変更し、次のいずれかの操作を行って、キューブまたはレポートの設定を変更します。
   - 「設定可能なオブジェクト」リストで選択したエントリーのみに変更内容を適用する場合には、「保存」をクリックします。
   - 「設定可能なオブジェクト」リストで選択したエントリーの子孫に変更内容を適用する場合には、「子孫をリセット」をクリックしてから「保存」をクリックします。
   - エントリーの設定をデフォルトに戻す場合には、プロパティーをそれぞれ選択してから「リセット」をクリックするか、または「すべてリセット」をクリックして、プロパティーの設定をまとめてデフォルトに戻します。「子孫をリセット」オプションを使用して、子孫に同じ変更を適用できます。変更内容が適用されるように、「保存」をクリックします。

タスクの結果

選択したフォルダー、キューブ、またはレポートに変更内容が適用されます。

個人用コンテンツ・フォルダーの PowerPlay キューブおよびレポートの設定のカスタマイズ

ユーザー・グループごとの用途に合わせて、特定のユーザーが使用する「個人用コンテンツ」のコンテンツの設定をカスタマイズできます。

IBM Cognos PowerPlay アプリケーションの外観、パフォーマンス、機能をカスタマイズするオプションには、さまざまなものがあります。または、フォルダー、パッケージ、キューブ、レポート単位で、「チーム用コンテンツ」のコンテンツの設定をカスタマイズすることもできます。

デフォルトでは、オブジェクトは親からの設定を引き継ぎます。例えば、パッケージは親フォルダーからキューブとレポートの設定を引き継ぎます。親の設定とは異なる設定を持たせる必要がある場合には、キューブまたはレポートごとに設定を変更することもできます。

カスタマイズする内容としては、次のようなものが考えられます。

- 個別にインターフェース・オプションを設定して、PowerPlay Studio の外観を変更する。
- ドリルスルーを有効にして、現在表示しているレポートに関連する情報を表示できるようにする。
- ユーザーが使用できるオプションを限定するため、または新しいツールバー・オプションを作成するために、ツールバーをカスタマイズする。

キューブとレポートの設定の中には、セキュリティー上の考慮が必要なものがあります。

- **PDF Rendering Viewer**

  この設定を「**Cognos Viewer**」から「**PowerPlay Studio Report Viewer**」に変更すると、PDF 出力は IBM Cognos Analytics Content Store とは別の場所に、暗号化されずに保存されます。IBM Cognos Series 7 との互換性を維持する

ために、このような処理になっていますが、出力内容に応じたセキュリティー・レベルを適用する必要があれば、別途、セキュリティー上の管理が必要になります。

- **HTML** エンコードのユーザー指定タイトル

  この設定を「有効」から「無効」に変更すると、レポートを表示したときに実行される可能性がある不正なスクリプトが、レポートのタイトルに挿入される恐れがあります。

手順

1. カスタマイズする「個人用コンテンツ」の場所の所有者であるユーザーの検索パスを取得します。

   検索パスは、IBM Cognos Administration の「セキュリティー」タブに表示されるユーザーのプロパティーで確認できます。次に、ユーザーの検索パスの例を示します。

   CAMID("series7:u:authid=3212592089")

   詳細については、*Cognos Analytics*「管理およびセキュリティー・ガイド」を参照してください。
2. PowerPlay Administration で、検索ボックスに検索パスを入力し、「検索」をクリックします。

   「検索結果」タブにユーザー名と「個人用コンテンツ」のコンテンツが表示されます。
3. 「設定可能なオブジェクト」リストでアイテムを選択します。
4. プロパティーを変更し、次のいずれかの操作を行って、キューブまたはレポートの設定を変更します。
   - 「設定可能なオブジェクト」リストで選択したエントリーのみに変更内容を適用する場合には、「保存」をクリックします。
   - 「設定可能なオブジェクト」リストで選択したエントリーの子孫に変更内容を適用する場合には、「子孫をリセット」をクリックしてから「保存」をクリックします。
   - エントリーの設定をデフォルトに戻す場合には、プロパティーをそれぞれ選択してから「リセット」をクリックするか、または「すべてリセット」をクリックして、プロパティーの設定をまとめてデフォルトに戻します。「子孫をリセット」オプションを使用して、子孫に同じ変更を適用できます。変更内容が適用されるように、「保存」をクリックします。

タスクの結果

「個人用コンテンツ」の場所で選択したフォルダー、キューブ、またはレポートに変更内容が適用されます。

PowerPlay Studio の外観の変更

IBM Cognos PowerPlay Studio のインターフェースにはオプションが 3 つあり、その中から選ぶことができます。

キューブ設定の中から目的のインターフェース・オプションを設定します。この設定では、キューブを使用する際のインターフェースをユーザー・グループごとに選択できます。例えば、Series 7 に精通したユーザー向けに、「**Series 7** スタイル」オプションを割り当てることもできます。

- **IBM Cognos PowerPlay Studio** スタイル

  「**IBM Cognos PowerPlay Studio** スタイル」はデフォルトのインターフェースで、IBM Cognos Analytics の他の Studio/Authoring ツールと互換性があります。

- **Series 7** スタイル

  「**Series 7** スタイル」インターフェースを選択すると、Series 7 の外観がそのまま継承されます。

- 標準表示

  「標準表示」インターフェースを選択すると、インターフェースの仕様が通常の HTML 様式になります。

手順

1. IBM Cognos Analytics ポータルで、「管理」 > 「管理コンソール」をクリックして IBM Cognos Administration を開きます。
2. 「設定可能なオブジェクト」リストで、フォルダーまたはパッケージをクリックします。

   ルート・フォルダーを選択すると、ルート・フォルダーのプロパティーがすべての子孫に継承されますが、これらのプロパティーは子孫のプロパティーで上書きできます。
3. 「キューブの設定」タブの「表示 **(Web)**」グループで、「タイプ」プロパティーの横にある矢印をクリックし、インターフェース・オプションを選択します。
4. 「保存」をクリックします。

タスクの結果

ユーザーが PowerPlay Studio でレポートまたはパッケージを開いたときに、ここで選択したインターフェースが使用されます。

ドリルスルーの有効化

それぞれのドリルスルー・オプションを指定することで、IBM Cognos Analytics および IBM Cognos Series 7 のコンテンツに対するドリルスルーを制御できます。

デフォルトでは、どちらのドリルスルー・オプションも無効になっています。Migration Assistant を使用して IBM Cognos PowerPlay コンテンツを IBM Cognos Series 7 から Cognos Analytics に移行した場合には、一部のドリルスルー設定はそのまま移行されます。

異なるコンピューター上にあるコンテンツ間のドリルスルー・アクセスが正常に動作するようにするには、IBM Cognos Configuration の「**IBM Cognos Application Firewall -** コンポーネント・プロパティー」で有効なドメインとホスト名を指定する必要があります。

Cognos Analytics に導入されたドリルスルーは、機能的には IBM Cognos Series 7 のものとは異なっています。

手順

1. IBM Cognos Analytics ポータルで、「管理」 > 「管理コンソール」をクリックして IBM Cognos Administration を開きます。
2. 「**PowerPlay**」タブをクリックします。
3. 「設定可能なオブジェクト」リストで、フォルダーまたはパッケージを選択します。
4. 「キューブの設定」タブをクリックし、ドリルスルー・オプションを有効にし、接続情報を指定します。
5. 「レポートの設定」タブをクリックし、必要なドリルスルー・オプションを有効にします。

   次の表では、ドリルスルー設定について説明します。接続情報のように設定内容によっては、「キューブの設定」タブにしか適用されないものもあります。

   要件: 「**PowerPlay Web** ターゲット」など、ドリルスルーをサポートするために使用されるゲートウェイ設定は、IBM Cognos Series 7 Configuration Manager のゲートウェイ URL 設定と一致している必要があります。

表 2. ドリルスルー設定

ドリルスルー設定	説明
PowerPlay キューブ	別のキューブの詳細にドリルスルーできるようにします。クライアント・アプリケーションでドリルスルー・アクセスを使用可能または使用不可にします。 PowerPlay Transformer で作成された PowerCube と、PowerPlay Connect で変更されたその他の OLAP ソースの両方で、ドリルスルーが使用できます。

表 2. ドリルスルー設定 (続き)

ドリルスルー設定	説明
PowerPlay Web ターゲット	"http://<ホスト名>/ibmcognos/cgi-bin/ppdscgi.exe"などの PowerPlay Web ゲートウェイ・プログラムの URL を指定します。 ネットワークの設定によっては、"http://<ホスト名>.<組織>.com/ibmcognos/cgi-bin/ppdscgi.exe"などのドメイン名を含めなければならない場合もあります。 デフォルト Web サーバー・ポートの 80 以外のポート番号を指定するには、"http://<ホスト名>:<ポート番号>/ibmcognos/cgi-bin/ppdscgi.exe"のようにサーバー名の後ろに番号を追加します。 Web サーバーで Secure Sockets Layer (SSL) が使用されている場合は、"https://<ホスト名>/ibmcognos/cgi-bin/ppdscgi.exe"のように、HTTPS プロトコルでサーバー名を指定します。
PowerPlay Web ドリルスルー **Newsbox**	PowerPlay からルート・サーバー・フォルダーにないターゲットまでドリルスルーできるように指定します。キューブの定義では、Upfront NewsBox 階層に含まれているドリルスルー・ターゲットを参照できます。
PowerPlay Web ドリルスルー・サーバー・グループ	IBM Cognos Series 7 Configuration Manager で指定した「**Upfront** サーバー・グループ」と同じ値です。
PowerPlay Web ドリルスルー **CRN** フォルダー	ドリルスルー・ターゲットが存在する IBM Cognos ReportNet または Cognos Analytics 内のフォルダーを指定します。
IBM Cognos Query	ユーザーが IBM Cognos Query の詳細にドリルスルーできるようにします。クライアント・アプリケーションでドリルスルー・アクセスを使用可能または使用不可にします。

表 2. ドリルスルー設定 (続き)

ドリルスルー設定	説明
IBM Cognos Query サーバー	"http://<ホスト名>/ibmcognos/cgi-bin/cqcgi.exe"などの IBM Cognos Query ゲートウェイ・プログラムの URL を指定します。 ネットワークの設定によっては、"http://<ホスト名>.<組織>.com/ibmcognos/cgi-bin/cqcgi.exe"などのドメイン名を含めなければならない場合もあります。 デフォルト・ポートの 80 以外のポート番号を指定するには、"http://<ホスト名>:<ポート番号>/ibmcognos/cgi-bin/cqcgi.exe"のようにサーバー名の後ろに番号を追加します。 Web サーバーで Secure Sockets Layer (SSL) が使用されている場合は、"https://<ホスト名>/ibmcognos/cgi-bin/cqcgi.exe"のように、HTTPS プロトコルでサーバー名を指定します。
Impromptu Web Reports	ユーザーが Impromptu レポートの詳細にドリルスルーできるようにします。この設定を使用して、クライアント・アプリケーションでドリルスルー・アクセスを使用可能または使用不可にします。
Impromptu Web Reports ドリルスルー **NewsBox**	ターゲット・ドリルスルー・レポートを含む発行済みレポート・セットの Upfront Newsbox を指定します。例えば、ドリルスルー・レポート"go.imr"が"Great Outdoors"フォルダーにある場合、このボックスに「Great Outdoors」と入力します。レポートがキューブ/数値データのドリルスルー・プロパティーを使用して Transformer で作成されたものであり構築時に含められた場合は、.imr ファイル名もキューブに書き込まれている必要があります。

表 2. ドリルスルー設定 (続き)

ドリルスルー設定	説明
Impromptu Web Reports サーバー	"http://<ホスト名>//ibmcognos/cgi-bin/imrap.cgi"など、Microsoft Windows オペレーティング・システムおよび UNIX オペレーティング・システム上の Impromptu Web Reports ゲートウェイ・プログラムの URL を指定します。 ネットワークの設定によっては、"http://<ホスト名>.<組織>.com/ibmcognos/cgi-bin/imrap.cgi"などのドメイン名を含めなければならない場合もあります。 デフォルト・ポートの 80 以外のポート番号を指定するには、"http://<ホスト名>:<ポート番号>/ibmcognos/cgi-bin/imrap.cgi"のようにサーバー名の後ろに番号を追加します。 Web サーバーで Secure Sockets Layer (SSL) が使用されている場合は、"https://<ホスト名>/ibmcognos/cgi-bin/imrap.cgi"のように、HTTPS プロトコルでサーバー名を指定します。
IBM Cognos ReportNet/IBM Cognos Connection	IBM Cognos ReportNet または Cognos Analytics 内の詳細に、ユーザーがドリルスルーできるようにします。この設定を使用して、クライアント・アプリケーションでドリルスルー・アクセスを使用可能または使用不可にします。
IBM Cognos ReportNet/IBM Cognos ゲートウェイ **URI**	http://*host_name*/ibmcognos/cgi-bin/cognos.cgi などの Windows および UNIX 上の IBM Cognos ReportNet または Cognos Analytics のゲートウェイ・プログラムの URL を指定します。 ネットワークの設定によっては、"http://<ホスト名>.<組織>.com/ibmcognos/cgi-bin/cognos.cgi" などのドメイン名を含めなければならない場合もあります。 デフォルト・ポートの 80 以外のポート番号を指定するには、"http://<ホスト名>:<ポート番号>/ibmcognos/cgi-bin/cognos.cgi" のようにサーバー名の後ろに番号を追加します。 Web サーバーで Secure Sockets Layer (SSL) が使用されている場合は、"https://<ホスト名>/ibmcognos/cgi-bin/cognos.cgi" のように、HTTPS プロトコルでサーバー名を指定します。
IBM Cognos ReportNet/IBM Cognos Connection フォルダー	ターゲット・ドリルスルー・レポートが含まれている IBM Cognos ReportNet または Cognos Analytics フォルダーを指定します。

表 2. ドリルスルー設定 (続き)

ドリルスルー設定	説明
IBM Cognos ReportNet/IBM Cognos Assistance	ユーザーがキューブ上で「ドリルスルー」をクリックした場合に、「ドリルスルー・アシスタント」ページが開くように指定します。このページを使用して、ドリルスルー・レポートに定義されるパラメーターを識別します。
PowerPlay Studio パッケージ	ユーザーが他の PowerCube または IBM Cognos PowerPlay レポートの詳細にドリルスルーできるようにします。
PowerPlay Studio パッケージ・フォルダー	ドリルスルー PowerCubes または IBM Cognos PowerPlay レポートが格納されている Cognos Analytics フォルダーを指定します。
IBM Cognos ドリルスルー定義	ユーザーに Cognos Analytics ドリルスルー定義の既存のリストから選択するか新しい定義を作成することを許可します。

6. 次のいずれかを行います。
   - 選択した設定可能なオブジェクトとその子孫に変更内容が適用されるように、「子孫をリセット」をクリックし、「保存」をクリックします。
   - 選択した設定可能なオブジェクトのみに変更内容を適用する場合には、「保存」をクリックします。

ツールバーのカスタマイズ

ツールバー・ボタンのうち有効なものと無効なものを設定することで、IBM Cognos PowerPlay Studio で使用可能な機能を制限することができます。ほとんどのツールバー・ボタンがデフォルトで有効になっていますが、この中には IBM Cognos Series 7 PowerPlay Web で使用可能なツールバー・オプションも含まれます。

この他に、IBM Cognos Analytics に固有のオプションもあります。例えば、「**Analysis Studio** で開く」というオプションがありますが、これは PowerPlay レポートを Analysis Studio で開くオプションです。機能を限定する他にも、ツールバー領域の外観もカスタマイズできます。

手順

1. 「設定可能なオブジェクト」リストで、フォルダーまたはパッケージを選択します。
2. 「キューブの設定」で、ツールバー設定を変更します。

表 3. ツールバーの設定

ツールバーのプロパティー	説明
画像	「背景画像ファイル」設定で指定されている画像を使用可能または使用不可にします。

表 3. ツールバーの設定 (続き)

ツールバーのプロパティー	説明
背景画像ファイル	ツールバー領域の背景として使用する .gif 画像または .jpg 画像のファイル名を指定します。 画像のコピー先は、<インストール場所>¥webcontent¥ppwb¥images フォルダーにする必要があります。ファイル名を指定するとき、パスは指定しないでください。 背景画像を使用するには、透明度プロパティーを有効にする必要があります。
背景色	ツールバー領域の背景色を指定します。
透過性	背景色を透明的に表示するかどうかを指定します。
あらかじめ用意されているボタン	使用可能なツールバー・ボタンを表示します。
カスタム・ボタン	ppwbcustom.js ファイルに追加したカスタム・ツールバー関数を有効にします。

3. 変更内容を保存します。

カスタム・ツールバー・ボタンの作成

ユーザーが共通のタスクを実行できるように、IBM Cognos PowerPlay Studio のツールバーに最大 8 個のカスタム・ボタンを追加できます。例えば、ボタンを追加して、部門の目次にリンクしたり、キューブの URL を同僚に E メールで送信できるようにします。また、カスタム・ボタンに JavaScript コードを追加することもできます。

手順

1. <インストール場所>¥webcontent¥ppwb フォルダーにある ppwbcustom.js ファイルをテキスト・エディターで開きます。
2. カスタム関数群の中にある目的の関数に、カスタム・コマンドに応じた JavaScript を作成してから、"ppwbcustom.js"ファイルを保存します。
3. PowerPlay Administration の「設定可能なオブジェクト」リストで、フォルダーまたはパッケージを選択します。
4. 「キューブの設定」の「ツールバー」グループで、"ppwbcustom.js"ファイルで変更した関数に該当するカスタム・エントリーを有効にし、「保存」をクリックします。
5. 子孫に変更内容を適用するかどうかを選択したら、「保存」をクリックします。

キューブの設定

キューブ設定を使用して、IBM Cognos PowerPlay アプリケーションをカスタマイズできます。

次の表では、「オプション」のプロパティーについて説明します。

表 4. キューブの設定:「オプション」のプロパティー

「オプション」のプロパティー	説明
タイトル	タイトルを指定します。タイトルには変数を含めることもできます。
HTML エンコードのユーザー指定タイトル	有効にした場合、Web に発行できるレポートのタイトル部分で使用できる HTML タグのセットが制限されます。無効にした場合は、すべての HTML タグをタイトル部分で使用できます。
PowerCube として保存	PowerPlay Client ユーザーがキューブをサブキューブとして保存できるかどうかを指定します。 このオプションがオンの場合、ユーザーは、リモート・キューブに接して、その一部をサブキューブ、つまりローカル・ドライブのローカル PowerCube (.mdc ファイル) として保存できます。そのためユーザーは、サーバーに接続していなくても、自分のコンピューター上のサブキューブにアクセスすることができます。また、その後で、リモート・サーバー・キューブに再同期できます。 サブキューブとして保存できるのは、PowerPlay Transformer で作成された PowerCube のみです。
データを取得	ユーザーが、クロス集計にデータを表示しなくてもレポートを閲覧できるようにします。この設定がオンの場合、ユーザーは「オプション」メニューから「データを後で取得」を、表示から「データを取得」を選択できるようになります。
監査レベル	キューブの監査レベルを指定します。監査を使用可能にすると、問題の分析と解決に役立つ情報が記録されます。 次の監査オプションを使用できます。 「なし」: 情報を記録しない 「概要」: キューブに対する要求を記録する 「詳細」: PowerPlay Studio からのアクセスがあった数値データ、ディメンション、キューブのレベルに関する統計を記録する。これによって、キューブでのさまざまな領域の使用頻度がわかり、効果的なキューブを作成する戦略の開発にも役立ちます。
キューに登録された要求のタイムアウト **(秒)**	キューブまたはレポートの要求が、キューに入っている時間を秒単位で設定します。設定した時間内にこれらの要求が処理されない場合は、再度要求するように求めるメッセージが表示されます。

表 4. キューブの設定:「オプション」のプロパティー (続き)

「オプション」のプロパティー	説明
CSV エクスポートのディメンション・ライン	ユーザーが PowerPlay Studio からコンマ区切り形式のファイル (.csv) をエクスポートするときに、ディメンション・ラインの情報を含めるかどうかを指定します。
PDF Rendering のレイアウト	PDF の表示方法を指定します。 「自動」: オーサリング・ツールに基づいて表示する 「**Web** レイアウト」: PowerPlay Studio スタイルの PDF を使用する 「クライアント・レイアウト」: PowerPlay Client スタイルの PDF を使用する
PDF Rendering Viewer	Report Viewer 用の PDF オプションを指定します。 「**IBM Cognos Viewer**」: IBM Cognos Business Intelligence スタイルのビューアーを使用する 「**PowerPlay Studio Report Viewer**」: IBM Cognos Series 7 スタイルのビューアーを使用する

次の表では、「プロセス・コントロール」のプロパティーについて説明します。

表 5. キューブの設定:「プロセス・コントロール」のプロパティー

「プロセス・コントロール」のプロパティー	説明
接続のタイムアウト **(分)**	PowerPlay Studio ユーザーのキューブへの接続がアクティブになっている時間を、分単位で設定します。接続がタイムアウトになった場合、ユーザーはキューブのパスワードの再入力を求められますが、認証情報の入力は不要です。 PowerPlay Client からサーバーへの接続については、接続タイムアウトは適用されません。
最小プロセス数	プロセスをいったん実行してから実行が継続するプロセスの最小数を設定します。
最大プロセス数	同時に実行できるプロセスの最大数を設定します。
要求のタイムアウト **(秒)**	サーバーによる要求処理の最長時間 (秒) を設定します。設定した時間内に要求が処理されない場合は、再度要求するように求めるメッセージが表示されます。

表 5. キューブの設定:「プロセス・コントロール」のプロパティー (続き)

「プロセス・コントロール」のプロパティー	説明
アイドル・プロセス・タイムアウト (分)	次の要求が送信されるまでにプロセスがアクティブになっている時間を分単位で設定します。プロセスがタイムアウトになると、使用されていたメモリーがサーバーで使用できるようになります。 「最小プロセス数」で指定したプロセス数は、要求が処理されていない場合でもアクティブのままです。
リサイクル時間 (分)	破棄する前にプロセスを実行できる最大時間 (分) を指定します。これらのプロセスによって消費されるリソースが多すぎる場合は、デフォルト値を小さくすることができます。 デフォルト値は 1440 分 (24 時間) です。リサイクル時間の設定を無効にするには、値を 0 (ゼロ) に設定します。

次の表では、「表示 **(Web)**」のプロパティーについて説明します。

表 6. キューブの設定:「表示 (Web)」のプロパティー

「表示 **(Web)**」のプロパティー	説明
画面の解像度	ボタンと表示の外観を最適化します。ユーザーのワークステーションに最も一般的な解像度を選択します。 解像度が Web ブラウザーに適していない場合、ボタンと表示は、テキストとは別のスケールで表示されます。適切な解像度がわからない場合は、解像度 800 x 600 を推奨します。
タイプ	次の使用可能なユーザー・インターフェースのいずれかを指定します。 「標準表示」では、HTML ページの生成を、古い Web ブラウザーでサポートされているコードに限定します。この設定をオンにすると、ユーザーは、使用しているブラウザーにかかわらず、DHTML レンダリングを取得できません。大きなキューブがある場合に DHTML を使用すると、サーバーのパフォーマンスが低下する場合があります。「標準表示」を有効にすると、パフォーマンスが向上します。 「**IBM Cognos PowerPlay Studio** スタイル」インターフェースでは、他の IBM Cognos Studio のルック・アンド・フィールが使用されています。 「**Series 7** スタイル」インターフェースでは、IBM Cognos Series 7 のルック・アンド・フィールが使用されています。

次の表では、「ページ・サイズ」のプロパティーについて説明します。

表 *7.* キューブの設定:「ページ・サイズ」のプロパティー

「ページ・サイズ」のプロパティー	説明
最大行数 最大列数	1 ページに表示される行と列の数を制限します。大きなレポートでのパフォーマンスと読みやすさが向上します。 レポート・ページには、前ページと後ページに移動できるナビゲーション・ボタンがあります。例えば、レポートを開いた後、ページを次の 20 列または 50 行移動できます。また、ボタンを使用して、列または行がある最初のページまたは最後のページに直接移動することもできます。 ページ制限はデフォルト値のみを設定できます。ページ付けしたレポートを開いた後に、制限を再定義することもできます。

次の表では、「メニューのサイズ」のプロパティーについて説明します。

表 *8.* キューブの設定:「メニューのサイズ」のプロパティー

「メニューのサイズ」のプロパティー	説明
最大文字数	通常インターフェース、拡張インターフェースのディメンションの表示およびフライアウトで、ドロップダウン・メニュー内のカテゴリー名として表示される文字数を制限します。 ボックス幅は、最大設定までの最長のカテゴリー名によって決まります。上限よりも長いカテゴリー名は切り捨てられます。カテゴリーを識別するために長い名前が必要な場合は、この制限値を増やすことができます。また、短いカテゴリー名で識別できる場合は、この制限値を減らすこともできます。

表 8. キューブの設定:「メニューのサイズ」のプロパティー (続き)

「メニューのサイズ」のプロパティー	説明
最大アイテム数	レベルごとに表示されるカテゴリー数を制限します。通常インターフェース、拡張インターフェースのディメンションの表示およびフライアウトで、ドロップダウン・メニューに大量のリスト・アイテムが表示されてしまう、Web ブラウザーの問題を回避するために使用します。 ディメンションに含まれるカテゴリー数が少ないためにキューブを再設計できない場合は、各レベルに含まれるカテゴリー数を制限できます。 例えば、ディメンション・ボックスのカテゴリーを 50 に制限すると、それを超えたレベルでは切り捨てが行われ、最初の 50 のカテゴリーのみが表示されます。ユーザーが次のカテゴリーを表示できるように、リストの最後にオプションが表示されます。このオプション名は、ユーザーが使用する Web ブラウザーのバージョンによって異なります。

次の表では、「ディメンションの領域」のプロパティーについて説明します。

表 9. キューブの設定:「ディメンションの領域」プロパティー

「ディメンションの領域」のプロパティー	説明
レポートのバナー	現在接続しているキューブの名前を含む PowerPlay Studio のバナーを表示します。
画像	「背景画像ファイル」設定で指定されている画像を使用可能または使用不可にします。
背景画像ファイル	ディメンション・リストが表示される領域の背景として使用する .gif 画像または .jpg 画像のファイル名を設定します。 画像のコピー先は、**<インストール場所>¥webcontent¥ppwb¥images** フォルダーにする必要があります。ファイル名を指定するとき、パスは指定しないでください。 背景画像を使用するには、透明度プロパティーを有効にする必要があります。
背景色	ディメンション・リストが表示される領域の背景色を設定します。
透過性	背景色を透明的に表示するかどうかを指定します。

次の表では、「クロス集計フレーム」のプロパティーについて説明します。

表 *10.* キューブの設定:「クロス集計フレーム」のプロパティー

「クロス集計フレーム」のプロパティー	説明
リンクの色	カテゴリー・ラベルなどのハイパーリンク・テキストの色を指定します。
テキストの色	データ値などの非ハイパーリンク・テキストの色を指定します。
画像	「背景画像ファイル」設定で指定されている画像を使用可能または使用不可にします。
背景画像ファイル	クロス集計フレームの背景として使用する .gif 画像または .jpg 画像のファイル名を指定します。 画像のコピー先は、<インストール場所>¥webcontent¥ppwb¥images フォルダーにする必要があります。ファイル名を指定するとき、パスは指定しないでください。 背景画像を使用するには、透明度プロパティーを有効にする必要があります。
背景色	ディメンション・リストが表示される領域の背景色を設定します。
透過性	背景色を透明的に表示するかどうかを指定します。

次の表では、「クロス集計」のプロパティーについて説明します。

表 *11.* キューブの設定:「クロス集計」のプロパティー

「クロス集計」のプロパティー	説明
画像	「背景画像ファイル」設定で指定されている画像を使用可能または使用不可にします。この設定は、「標準表示」インターフェースにのみ適用されます。
背景画像ファイル	クロス集計表示の背景として使用する .gif 画像または .jpg 画像のファイル名を指定します。 画像のコピー先は、<インストール場所>¥webcontent¥ppwb¥images フォルダーにする必要があります。ファイル名を指定するとき、パスは指定しないでください。 背景画像を使用するには、透明度プロパティーを有効にする必要があります。
背景色	ディメンション・リストが表示される領域の背景色を設定します。

表 *11.* キューブの設定:「クロス集計」のプロパティー (続き)

「クロス集計」のプロパティー	説明
透過性	背景色を透明的に表示するかどうかを指定します。

次の表では、「グラフ・フレーム」のプロパティーについて説明します。

表 *12.* キューブの設定:「グラフ・フレーム」のプロパティー

「グラフ・フレーム」のプロパティー	説明
リンクの色	カテゴリー・ラベルなどのハイパーリンク・テキストの色を指定します。
テキストの色	データ値などの非ハイパーリンク・テキストの色を指定します。
画像	「背景画像ファイル」設定で指定されている画像を使用可能または使用不可にします。
背景画像ファイル	グラフ表示の背景として使用する .gif 画像または .jpg 画像のファイル名を指定します。 画像のコピー先は、<インストール場所>¥webcontent¥ppwb¥images フォルダーにする必要があります。ファイル名を指定するとき、パスは指定しないでください。 背景画像を使用するには、透明度プロパティーを有効にする必要があります。
背景色	ディメンション・リストが表示される領域の背景色を設定します。
透過性	背景色を透明的に表示するかどうかを指定します。

レポートの設定

レポート設定を使用して、IBM Cognos PowerPlay アプリケーションをカスタマイズできます。

次の表では、「オプション」のプロパティーについて説明します。

表 *13.* レポート設定:「オプション」のプロパティー

「オプション」のプロパティー	説明
双方向の **HTML** 形式で閲覧	ユーザーが、PDF レポートを双方向の HTML 形式で閲覧できるかどうかを指定します。このオプションは、レポートがポータルに発行された場合に、ユーザーが双方向の HTML 形式でレポートを開くことができるかどうかにも影響を与えます。

表 *13.* レポート設定:「オプション」のプロパティー *(*続き*)*

「オプション」のプロパティー	説明
監査レベル	レポートの監査レベルを指定します。監査を使用可能にすると、問題の分析と解決に役立つ情報が記録されます。次の監査オプションを使用できます。 「なし」: 情報を記録しない 「概要」: レポートに対する要求を記録する 「詳細」: PowerPlay Studio からのアクセスがあった数値データ、ディメンション、キューブのレベルに関する統計を記録する。これによって、キューブでのさまざまな領域の使用頻度がわかり、効果的なキューブを作成する戦略の開発にも役立ちます。
キューに登録された要求のタイムアウト **(**秒**)**	キューブまたはレポートの要求が、キューに入っている時間を秒単位で設定します。設定した時間内にこれらの要求が処理されない場合は、再度要求するように求めるメッセージが表示されます。
ページ・サイズ	PDF レポートを印刷するページ・サイズを指定します。
用紙の向き	PDF レポートを印刷するデフォルトの用紙の向きを指定します。
フレームの境界線を表示	「フレームの境界線を表示」チェック・ボックスを使用可能にして、ユーザーに対してレポートへの境界線の追加を許可するかどうかを指定します。
ドリル・リンクの説明	PDF に表示されるレポートの行ラベルまたは列ラベルに、「説明」ドリル・リンクを含めるかどうかを指定します。
ステータス行	ステータス行を表示するかどうかを指定します。
行の折り返し	PDF ラベルを右端で折り返すことができるかどうかを指定します。
レイヤーを含める	有効にした場合、PowerPlay Client と同じように PDF がレイヤー化されます。
PDF Rendering のレイアウト	PDF の表示方法を指定します。 「自動」: オーサリング・ツールに基づいて表示する 「クライアント・レイアウト」: PowerPlay Client スタイルの PDF を使用する 「**Web** レイアウト」: PowerPlay Studio スタイルの PDF を使用する

表 *13.* レポート設定:「オプション」のプロパティー *(*続き*)*

「オプション」のプロパティー	説明
PDF Rendering Viewer	Report Viewer 用の PDF オプションを指定します。 「**Cognos Viewer**」: IBM Cognos Business Intelligence スタイルのビューアーを使用する 「**PowerPlay Studio Report Viewer**」: IBM Cognos Series 7 スタイルのビューアーを使用する
ページ付け	PDF のページ付けに関するオプションを定義できるようにします。

次の表では、「プロセス・コントロール」のプロパティーについて説明します。

表 *14.* レポート設定:「プロセス・コントロール」のプロパティー

「プロセス・コントロール」のプロパティー	説明
接続のタイムアウト **(**分**)**	PowerPlay Studio ユーザーのレポートへの接続がアクティブになっている時間を、分単位で設定します。接続がタイムアウトになった場合、ユーザーはキューブのパスワードの再入力を求められますが、認証情報の入力は不要です。 PowerPlay Client からサーバーへの接続については、接続タイムアウトは適用されません。
最小プロセス数	プロセスをいったん開いてから実行が継続するプロセスの最小数を設定します。
最大プロセス数	同時に開くことができるプロセスの最大数を設定します。
アイドル・プロセス・タイムアウト **(**分**)**	次の要求が送信されるまでにプロセスがアクティブになっている時間を分単位で設定します。プロセスがタイムアウトになると、使用されていたメモリーがサーバーで使用できるようになります。 「最小プロセス数」で指定したプロセス数は、要求が処理されていない場合でもアクティブのままです。
リサイクル時間 **(**分**)**	破棄する前にプロセスを実行できる最大時間を指定します。これらのプロセスによって消費されるリソースが多すぎる場合は、デフォルト値を小さくすることができます。 デフォルト値は 1440 分 (24 時間) です。リサイクル時間の設定を無効にするには、値を 0 (ゼロ) に設定します。

次の表では、「表示」のプロパティーについて説明します。

表 *15.* レポート設定:「表示」のプロパティー

「表示」のプロパティー	説明
画面の解像度	ボタンと表示の外観を最適化します。ユーザーのワークステーションに最も一般的な解像度を選択します。 解像度が Web ブラウザーに適していない場合、ボタンと表示は、テキストとは別のスケールで表示されます。 適切な解像度がわからない場合は、デフォルトの解像度 800 x 600 を推奨します。

次の表では、「レポート」のプロパティーについて説明します。

表 *16.* レポート設定:「レポート」のプロパティー

「レポート」のプロパティー	説明
軽量 **PDF** の生成	サーバー上のシステム・フォントは、PDF 形式のレポートに埋め込むことができます。無効にすると、サーバー上のすべてのフォントが埋め込まれます。有効にすると、IBM Cognos Configuration の「フォント設定」セクションに指定したフォントのみが使用されます。 システム・フォントがレポートに埋め込まれないようにすると、レポート内のテキストが適切に表示されない場合があります。
パターン・シミュレーション	レポートで使用されたパターンをサーバーでシミュレートするか、PowerPlay Client レポート内のパターンの代わりに塗りつぶし四角形を使用するかを指定します。オンにすると、パターンは PDF 形式のレポートでビットマップとして再現されます。オフにすると、PDF 形式のレポートに塗りつぶし四角形が示されます。パターン・シミュレーションを使用すると、元のレポートで使用されたパターンを正確に再現できますが、より多くのリソースが必要となり、PDF ファイルのサイズが大きくなります。

第 3 章 Cognos PowerPlay サンプルの設定

PowerPlay サンプルは、IBM Cognos Analytics 補足サンプルに含まれています。

補足サンプルは、IBM Cognos Analytics Community の Supplementary (Legacy) Cognos Analytics 11 Samples (www.ibm.com/communities/analytics/cognos-analytics-blog/supplementary-ibm-cognos-analytics-11-samples) にあります。

PowerPlay サンプルは `IBM_Cognos_PowerPlay.zip` および `IBM_Cognos_DrillThroughSamples.zip` 配布アーカイブとして提供されています。サンプルは、`great_outdoors_sales_en.mdc` および `sales_and_marketing.mdc` のサンプル PowerCube のデータに基づいています。

補足サンプルのダウンロード

補足サンプルは、IBM Cognos Analytics コミュニティーで入手できます。サンプルを構成するには、まずそれらをダウンロードする必要があります。

このタスクについて

補足サンプルを、補足サンプルの Web サイト (www.ibm.com/communities/analytics/cognos-analytics-blog/supplementary-ibm-cognos-analytics-11-samples) からダウンロードします。複数のサンプルが、`LegacySamples.zip` という名前でパッケージ化されています。このファイルには、IBM Cognos PowerPlay で使用する配布を含む、6 つの配布が含まれています。

手順

1. 補足サンプルの Web サイト (www.ibm.com/communities/analytics/cognos-analytics-blog/supplementary-ibm-cognos-analytics-11-samples) に移動します。
2. `LegacySamples.zip` ファイルをダウンロードし、その内容をアクセス可能な任意の場所に解凍します。

   `LegacySamples.zip` ファイルには `Samples` フォルダーが含まれていて、このフォルダーには複数のサブフォルダーが含まれています。

   `content` サブフォルダーには、PowerPlay 配布 IBM_Cognos_PowerPlay.zip および IBM_Cognos_DrillThroughSamples.zip が含まれています。

   `datasources¥cubes¥PowerCubes¥EN` サブフォルダーには、PowerPlay レポートのデータ・ソースとして使用される PowerCubes `great_outdoors_sales_en` および `sales_and_marketing` が含まれています。
3. PowerPlay 配布アーカイブを、IBM Cognos Configuration で指定されている Cognos Analytics の配布ファイルの場所にコピーします。デフォルトの場所は、*cognos_analytics_installation_location*/`deployment` です。

サンプル PowerCubes へのデータ・ソース接続の作成

サンプル・レポートは、サンプル PowerCubes に基づいています。サンプルを使用するには、これらの PowerCubes へのデータ・ソース接続を作成する必要があります。

サンプル sample PowerCubes は、`great_outdoors_sales_en.mdc` および `sales_and_marketing.mdc` です。これらの PowerCubes は、ダウンロードした補足の `LegacySamples.zip` の `Samples¥datasources¥cubes¥PowerCubes¥EN` フォルダーにあります。

以下の手順を、PowerCube ごとに繰り返す必要があります。

手順

1. IBM Cognos Analytics ポータルに接続します。
2. 「ようこそ」ページで、「管理」 > 「管理コンソール」をクリックします。
3. IBM Cognos Administration で、「設定」タブをクリックします。
4. 「データ・ソースの新規作成」ボタン をクリックします。
5. 「名前」ボックスに、以下の名前を入力します。

   `great_outdoors_sales_en.mdc` の場合は `great_outdoors_sales_en` と入力

   `sales_and_marketing.mdc` の場合は `sales_and_marketing` と入力

   名前はすべて小文字でなければならず、スペースではなくアンダースコアー文字を含める必要があります。

   「次へ」をクリックします。
6. 「タイプ」ボックスで「**IBM Cognos PowerCube**」を選択し、「次へ」をクリックします。
7. 「**Windows** での場所」ボックスに、各 PowerCube の場所とファイル名を入力します。

   `great_outdoors_sales_en.mdc` の場合、場所は `C:¥LegacySamples¥Samples¥datasources¥cubes¥PowerCubes¥EN¥great_outdoors_sales_en.mdc` のようになります。

   `sales_and_marketing.mdc` の場合、場所は `C:¥LegacySamples¥Samples¥datasources¥cubes¥PowerCubes¥EN¥sales_and_marketing.mdc` のようになります。
8. 入力したすべてのパラメーターが正しいことを確認するため、「接続をテスト」をクリックします。

   接続をテストしたら、「結果を表示」ページと「接続をテスト」ページで「閉じる」をクリックし、接続文字列のページに戻ります。
9. 「終了」をクリックします。
10. 「終了」ページで、「**OK**」をクリックします。「パッケージを作成」は選択しません。

タスクの結果

接続を作成したら、great_outdoors_sales_en および sales_and_marketing の項目が「データ・ソース接続」のデータ・ソースのリストに表示されます。次に、サンプル配布を IBM Cognos Analytics 環境にインポートする必要があります。

サンプル配布のインポート

Cognos Viewer や IBM Cognos PowerPlay Studio でサンプル・レポートを使用できるようにするには、補足サンプルの Web サイトからダウンロードした PowerPlay 配布アーカイブをインポートする必要があります。

PowerPlay Studio で使用できる配布アーカイブは、IBM_Cognos_PowerPlay.zip および BM_Cognos_DrillThroughSamples.zip です。

以下の手順を、配布ごとに繰り返します。

手順

1. サンプル配布 IBM_Cognos_PowerPlay.zip および BM_Cognos_DrillThroughSamples.zip を、補足サンプルのダウンロード場所から Cognos Configuration で指定された Cognos Analytics の配布ファイルの場所にコピーします。デフォルトの場所は *cognos_analytics_server_installation_location*/deployment です。
2. IBM Cognos Analytics ポータルに接続します。
3. 「ようこそ」ページで、「管理」 > 「管理コンソール」をクリックします。
4. 「設定」タブで、「コンテンツ管理」をクリックします。
5. 「インポートの新規作成」ボタン をクリックします。
6. 配布 **IBM_Cognos_PowerPlay** または BM_Cognos_DrillThroughSamples.zip を選択し、「次へ」をクリックします。
7. 「共有フォルダー、ディレクトリー、およびライブラリーのコンテンツの内容を選択」ページで、サンプル・フォルダー名 (IBM_Cognos_PowerPlay.zip の場合は Samples_PowerPlay、IBM_Cognos_DrillThroughSamples.zip の場合は Samples_Drillthrough) の隣のチェック・ボックスを選択します。

   デフォルトのターゲット・フォルダー名と場所を保持し、「次へ」をクリックします。
8. 次のいくつかのページでは、デフォルトのオプションにしたまま「次へ」をクリックします。
9. 「保存して **1** 回実行」を選択し、「終了」をクリックします。
10. 「今すぐ実行」を選択し、「実行」をクリックしてから、「**OK**」をクリックします。

タスクの結果

IBM_Cognos_PowerPlay と IBM_Cognos_DrillThroughSamples の項目が「コンテンツ管理」に表示されます。

フォルダー「Samples_PowerPlay」および「Samples_Drillthrough」が、Cognos Analytics ポータルの「チーム用コンテンツ」に表示されます。これらのフォルダーには、サンプルの PowerPlay パッケージとレポートが含まれています。

サンプル・レポートのテスト

サンプル・レポートは、IBM Cognos Viewer と PowerPlay Studio で表示できます。

手順

1. Cognos Viewer でレポートをテストするには、以下の手順を実行します。
   a. IBM Cognos Analytics ポータルに接続します。
   b. 「チーム用コンテンツ」で、Samples_PowerPlay フォルダーを開きます。
   c. **"great_outdoors_sales_ja"**をクリックします。
   d. リストにある任意のレポートをクリックします。IBM Cognos Viewer にレポートが表示されます。
2. PowerPlay Studio でレポートをテストするには、以下の手順を実行します。
   a. IBM Cognos Analytics ポータルに接続します。
   b. 「チーム用コンテンツ」で、Samples_PowerPlay フォルダーを開きます。
   c. **great_outdoors_sales_en** をクリックし、任意のレポートの右クリック・メニューで「編集」をクリックします。PowerPlay Studio でレポートが開きます。

第 4 章 ログ記録の設定

IBM Cognos Analytics のログ・メッセージには、PowerPlay などのコンポーネントのステータスに関する情報と、重要イベントの概要が表示されます。

サービスの開始や停止を試みた操作、処理要求の完了、致命的なエラーのインディケーターを記録できます。監査ログはログ記録データベースから使用でき、このログにはユーザーやレポート処理に関する情報が出力されます。

ログ記録レベルの説明や監査レポートの設定など、Cognos Analytics のログ記録の詳細については、「*Cognos Analytics* 管理およびセキュリティー・ガイド」を参照してください。

IBM Cognos Analytics のログ記録の設定

Cognos Administration でログ記録レベルを設定して、ログ・ファイルまたはログ・データベースに記録するイベントやメッセージを指定します。

イベントとは、サービスの開始や停止など、Cognos Analytics 環境で発生する事象の中でも特に追跡する価値のある重要なものを指します。

Content Manager のログ記録を使用したユーザーおよびセッション情報の追跡など、他のコンポーネントに対するログ記録の設定方法については、Cognos Analytics「管理およびセキュリティー・ガイド」を参照してください。

IBM Cognos Analytics ログ・メッセージのターゲットの指定

ログ・メッセージのターゲットは、IBM Cognos PowerPlay のインストール時に設定されます。デフォルトのターゲットは、ローカル・コンピューター上のファイルです。ログ・メッセージをデータベースに送信するように Cognos Analytics を設定することもできます。

ログ・メッセージのターゲット・オプションやターゲットの変更の詳細については、IBM Cognos PowerPlay「インストールおよび設定ガイド」を参照してください。

PowerPlay サービスのログ記録の有効化

ログ記録レベルを設定して、サービスの開始や停止など、ログ・ファイルまたはログ・データベースに記録する PowerPlay サービスのイベントやメッセージを指定します。

次の表に、各ログ記録レベルで記録される情報を示します。

表 *17.* 各ログ記録レベルで記録される情報

詳細	最小限	標準	要求	トレース	最大
システムおよびサービスの始動および終了、実行時エラー	X	X	X	X	X
ユーザー・アカウントの管理と実行時の IBM Cognos Analytics の使用状況		X	X	X	X
ユーザーの要求		X	X	X	X
サービスへの要求と応答			X		X
すべてのコンポーネントに対するすべての要求とそのパラメーター値				X	X
Cognos Analytics コンポーネントに対する他のクエリー (ネイティブ・クエリー)				X	X

サーバーで記録するログの量を管理することで、システムのパフォーマンスを維持できます。ログ記録の範囲が広範囲に及ぶとサーバーのパフォーマンスに影響を与えるため、ログ記録レベルを上げると Cognos Analytics のパフォーマンスが低下する場合があります。

デフォルトのログ記録レベルは「最小限」です。デフォルトの設定で必要な情報が入手できない場合は、ログ記録レベルを段階的に上げてください。例えば、要求ログ記録レベルにすると、ディメンション、レベル、および数値データの処理状況に関する情報が記録されます。「最大」ログ記録レベルは、サーバーのパフォーマンスが大幅に低下する場合があるため、詳細なトラブルシューティングの目的にのみ使用します。

手順

1. Cognos Administration を開始します。
2. 「ステータス」タブの「システム」をクリックします。
3. 「スコアカード」ウィンドウの左上隅にある「サービス」を選択し、「**PowerPlay**」をクリックします。
4. 「**PowerPlay** サービス」の横にある矢印をクリックして「操作」メニューを表示し、「プロパティーを設定」をクリックします。
5. 「設定」タブをクリックします。
6. 「カテゴリー」メニューの「ログ記録」をクリックします。

7. 「値」メニューから、サービスに対するログ記録レベルを選択します。

   問題のトラブルシューティングを目的としている場合以外は、ほとんどのインストールで「要求」が適切なログ記録レベルです。

8. 「**OK**」をクリックします。

PowerPlay キューブおよびレポート処理のログ記録の有効化

デフォルトでは、キューブとレポートに対するログ記録は無効になっています。キューブとレポートの処理状況を追跡するには、IBM Cognos PowerPlay Administration でキューブとレポートに対する監査ログ記録を有効にする必要があります。

概要レベルまたは詳細レベルで監査できます。概要ログ記録では、すべての PowerPlay ユーザーからキューブとレポートに対して行われた全サーバー要求が記録されます。詳細ログ記録では、PowerPlay Studio からアクセスされた数値データとディメンションが記録されます。

手順

1. IBM Cognos Analytics ポータルで、「管理」 > 「管理コンソール」をクリックして IBM Cognos Administration を開きます。
2. 「**PowerPlay**」タブをクリックします。
3. 「設定可能なオブジェクト」リストで、フォルダーまたはパッケージを選択します。

   設定は、選択したフォルダーまたはパッケージ内に含まれているすべてのオブジェクトに適用されます。その後、各アイテムの監査レベルを親とは異なるレベルに変更できます。

4. 「キューブの設定」または「レポートの設定」タブをクリックします。
5. 「監査レベル」で、「概要」または「詳細」を選択します。
6. 「**OK**」をクリックします。

サンプル監査モデルと監査レポート

IBM Cognos PowerPlay には、IBM Cognos Analytics のログ記録で使用できるサンプル・モデルとサンプル監査レポートが用意されています。

サンプル監査モデル

Cognos Analytics には、Framework Manager のサンプル監査モデルが用意されています。デフォルトの場所は、*install_location*/webcontent/samples/Models/Audit/Audit.cpf です。

サンプル監査レポート

次の表は PowerPlay のサンプル監査レポートのリストで、各レポートの内容が示されています。

表 *18.* サンプル監査レポート

監査レポート名	説明
PowerPlay アクセス	PowerPlay にアクセスしたユーザー、ポータルにログオンした時刻、アクセスしたパッケージが表示される
PowerPlay 使用方法	どのユーザーがどのパッケージにアクセスしたかが表示され、パッケージ内でユーザーがアクセスしたディメンション、レベル、および数値データが表示される

IBM Cognos PowerPlay のログ・メッセージのデータ・スキーマ

次のセクションには、IBM Cognos PowerPlay ログ・メッセージのテーブル定義および相互関係についての情報を記載しています。

この情報は、「*Cognos Analytics* 管理およびセキュリティー・ガイド」に記載されている他の IBM Cognos Analytics コンポーネントのデータ・スキーマ情報を補足するものです。

テーブルの定義

ログ・メッセージは、一定の条件においてログ記録データベースのテーブルに記録されます。これらの条件は、Web ポータルに設定するログ記録レベルによって決まります。

ログ記録レベルの詳細については、IBM Cognos Analytics「管理およびセキュリティー・ガイド」を参照してください。

ユーザーが Cognos Analytics にログオンすると、セッション ID が割り当てられ、すべてのログ・メッセージに記録されます。このセッション ID を使用して、ユーザーが実行するすべての操作を識別できます。

次の表は、PowerPlay の Cognos Analytics ログ記録データベースに作成されるデータベース表の定義の説明です。各項目には、関連する列の定義への相互参照が記載されています。

表 *19.* ログ記録データベースのテーブルの定義

テーブル名	説明
COGIPF_POWERPLAY	PowerPlay のパッケージ、レポート、およびレポート・ビュー要求に関する情報が格納される
COGIPF_POWERPLAY_DIM_USAGE	PowerPlay のパッケージ、レポート、およびレポート・ビュー要求で使用されるディメンションに関する情報が格納される
COGIPGF_POWERPLAY_LEVEL_USAGE	PowerPlay のパッケージ、レポート、およびレポート・ビュー要求で使用されるレベルに関する情報が格納される

表 *19.* ログ記録データベースのテーブルの定義 *(*続き*)*

テーブル名	説明
COGIPF_POWERPLAY_MEASURE_USAGE	PowerPlay のパッケージ、レポート、およびレポート・ビュー要求で使用される PowerPlay の数値データに関する情報が格納される
COGIPF_MIGRATION	Migration サービスの処理に関する情報が格納される

テーブルの相互関係

次の表は、ログ記録データベースにある各 IBM Cognos PowerPlay テーブルの列の説明です。

COGIPF_POWERPLAY テーブル**:**

COGIPF_POWERPLAY テーブルには、次の列があります。

表 *20. COGIPF_POWERPLAY* テーブルの列

列名	説明およびデータ型
COGIPF_HOST_ IPADDR	ログ・メッセージが生成されるホスト IP アドレス。 VARCHAR2 (15)
COGIPF_HOST_ PORT	ホストのポート番号。 NUMBER
COGIPF_PROC_ID	オペレーティング・システムによって割り当てられるプロセス ID。 NUMBER
COGIPF_LOCAL TIMESTAMP	ログ・メッセージが生成されたローカルの日時。 レポートの実行中は、レポートの実行開始時刻を示します。レポートの実行完了後は、レポートの実行終了時刻を示します。 すでに完了しているレポートの実行開始時刻を計算するには、COGIPF_LOCALTIMESTAMP から COGIPF_RUNTIME を減算します。 日付

表 20. *COGIPF_POWERPLAY* テーブルの列 (続き)

列名	説明およびデータ型
COGIPF_TIMEZONE_ OFFSET	GMT からのタイム・ゾーンの時差。 NUMBER
COGIPF_SESSIONID	セッションの ID 番号。 VARCHAR2 (255)
COGIPF_ REQUESTID	要求の ID 番号。 VARCHAR2 (255) UNIQUE NOT NULL
COGIPF_STEPID	ジョブ実行内のステップの ID 番号 (存在しない場合は空)。 VARCHAR2 (255)
COGIPF_ SUBREQUESTID	コンポーネント二次要求の ID 番号。 VARCHAR2 (255)
COGIPF_THREADID	レポートが実行されたスレッドの ID 番号。 VARCHAR2 (255)
COGIPF_ COMPONENTID	指示を生成するコンポーネントの名前。 VARCHAR2 (4)
COGIPF_ BUILDNUMBER	指示を生成するコンポーネントのメジャー・ビルド番号。 NUMBER
COGIPF_ LOG_LEVEL	指示のレベル。 NUMBER
COGIPF_ TARGET_TYPE	処理が実行されるオブジェクト。 VARCHAR2 (255)
COGIPF_ REPORTPATH	レポート・パス。 VARCHAR2 (512)
COGIPF_STATUS	処理のステータス (実行が完了していない場合は空白、成功、警告、または失敗)。 VARCHAR2 (255)

表 *20. COGIPF_POWERPLAY* テーブルの列 *(*続き*)*

列名	説明およびデータ型
COGIPF_ RUNTIME	レポートの実行時間 (ミリ秒単位)。 NUMBER
COGIPF_REPORTNAME	レポートの名前。 VARCHAR2 (255)
COGIPF_PACKAGE	レポートが関連付けられているパッケージ。 VARCHAR2 (512)
COGIPF_DATASOURCE	レポートが関連付けられているデータ・ソース。 VARCHAR2 (512)
COGIPF_DATASOURCE_CONNECTION	レポートが関連付けられているデータ・ソース接続。 VARCHAR2 (512)
COGIPF_CUBEPATH	レポートが関連付けられているローカル PowerCube へのパス。 VARCHAR2 (512)
COGIPF_OPERATION	オブジェクトに対して実行される操作。 VARCHAR2 (128)
COGIPF_MESSAGE	エラーの詳細。 VARCHAR2 (2000)
COGIPF_REQUEST_TYPE	NUMBER
COGIPF_SUB_COMPONENTID	VARCHAR2 (64)

COGIPF_POWERPLAY_DIM_USAGE テーブル**:**

COGIPF_POWERPLAY_DIM_USAGE テーブルには、次の列があります。

表 *21. COGIPF_POWERPLAY_DIM_USAGE* テーブルの列

列名	説明およびデータ型
COGIPF_SESSIONID	セッションの ID 番号。 VARCHAR2 (255)

表 21. *COGIPF_POWERPLAY_DIM_USAGE* テーブルの列 (続き)

列名	説明およびデータ型
COGIPF_REQUESTID	要求の ID 番号。 VARCHAR2 (255) UNIQUE NOT NULL
COGIPF_DIM_CODE	要求に関連付けられているディメンション・コード。 VARCHAR2 (256) UNIQUE NOT NULL
COGIPF_DIM_NAME	要求に関連付けられているディメンション名。 VARCHAR2 (256)
COGIPF_DIM_COUNT	要求に関連付けられているディメンション数。 NUMBER

COGIPF_POWERPLAY_LEVEL_USAGE テーブル**:**

COGIPF_POWERPLAY_LEVEL_USAGE テーブルには、次の列があります。

表 22. *COGIPF_POWERPLAY_LEVEL_USAGE* テーブルの列

列名	説明およびデータ型
COGIPF_SESSIONID	セッションの ID 番号。 VARCHAR2 (255)
COGIPF_REQUESTID	要求の ID 番号。 VARCHAR2 (255) UNIQUE NOT NULL
COGIPF_DIM_CODE	要求に関連付けられているディメンション・コード。 VARCHAR2 (256) UNIQUE NOT NULL
COGIPF_LEVEL_CODE	要求に関連付けられているレベル・コード。 VARCHAR2 (256) UNIQUE NOT NULL
COGIPF_LEVEL_NAME	要求に関連付けられているレベル名。 VARCHAR2 (256)
COGIPF_LEVEL_COUNT	要求に関連付けられているレベル数。 NUMBER

COGIPF_POWERPLAY_MEASURE_USAGE テーブル**:**

COGIPF_POWERPLAY_MEASURE_USAGE テーブルには、次の列があります。

表 *23. COGIPF_POWERPLAY_MEASURE_USAGE* テーブルの列

列名	説明およびデータ型
COGIPF_SESSIONID	セッションの ID 番号。 VARCHAR2 (255)
COGIPF_REQUESTID	要求の ID 番号。 VARCHAR2 (255)
COGIPF_MEASURE_CODE	要求に関連付けられている数値データ・コード。 VARCHAR2 (256)UNIQUE NOT NULL
COGIPF_MEASURE_NAME	要求に関連付けられている数値データ名。 VARCHAR2 (256)
COGIPF_MEASURE_COUNT	要求に関連付けられている数値データ数。 NUMBER

COGIPF_MIGRATION テーブル**::**

COGIPF_MIGRATION テーブルには、次の列があります。

表 *24. COGIPF_MIGRATION* テーブルの列

列名	説明およびデータ型
COGIPF_HOST_ IPADDR	ログ・メッセージが生成されるホスト IP アドレス。 VARCHAR (128)
COGIPF_HOST_ PORT	ホストのポート番号。 INT (4)
COGIPF_PROC_ID	オペレーティング・システムによって割り当てられるプロセス ID。 INT (4)
COGIPF_LOCALTIMESTAMP	ログ・メッセージが生成されたローカルの日時。 DATETIME (8)

表 24. *COGIPF_MIGRATION* テーブルの列 (続き)

列名	説明およびデータ型
COGIPF_TIMEZONE_ OFFSET	GMT からのタイム・ゾーンの時差。 INT (4)
COGIPF_SESSIONID	セッションの ID 番号。 VARCHAR(255)
COGIPF_ REQUESTID	要求の ID 番号。 VARCHAR(255)
COGIPF_STEPID	ジョブ実行内のステップの ID 番号 (存在しない場合は空)。 VARCHAR(255)
COGIPF_ SUBREQUESTID	コンポーネント二次要求の ID 番号。 VARCHAR(255)
COGIPF_THREADID	レポートが実行されたスレッドの ID 番号。 VARCHAR(255)
COGIPF_ COMPONENTID	指示を生成するコンポーネントの名前。 VARCHAR(64)
COGIPF_ BUILDNUMBER	指示を生成するコンポーネントのメジャー・ビルド番号。 INT (4)
COGIPF_ LOG_LEVEL	指示のレベル。 INT (4)
COGIPF_OPERATION	オブジェクトに対して実行される操作。 VARCHAR(64)
COGIPF_TARGET_TYPE	移行されるオブジェクトのタイプ。 VARCHAR(64)
COGIPF_TARGET_PATH	IBM Cognos Analytics 内の移行対象オブジェクトのパス nVARCHAR (1024)

表 24. *COGIPF_MIGRATION* テーブルの列 (続き)

列名	説明およびデータ型
COGIPF_TARGET_NAME	IBM Cognos Analytics 内の移行対象オブジェクトの名前。 nVARCHAR(255)
COGIPF_STATUS	処理のステータス。 VARCHAR(64)
COGIPF_DETAILS	処理に関する詳細情報。 nVARCHAR(2000)
COGIPF_PACKAGE	移行タスクの一部として作成されたパッケージ。 nVARCHAR(512)
COGIPF_MIGRATION_TASK	移行タスクの名前。 nVARCHAR (1024)
COGIPF_MSGNUM	メッセージ番号。 INT (4)
COGIPF_SOURCE_TYPE	移行ソースのタイプ (IBM Cognos Connection、Upfront、または PowerPlay Enterprise Server)。 VARCHAR(64)
COGIPF_SOURCE_PATH	IBM Cognos Series 7 内のオブジェクトのパス。 nVARCHAR (1024)
COGIPF_SOURCE_NAME	IBM Cognos Series 7 内のオブジェクトの名前。 nVARCHAR(255)

第 5 章 PowerPlay Batch Administration

このセクションでは、IBM Cognos PowerPlay バッチ管理ユーティリティーで使用できる管理オプションについて説明します。バッチ管理ユーティリティーを使用すると、ブラウザー・セッションで IBM Cognos Administration を使用する代わりに、IBM Cognos PowerPlay の管理コマンドを、Microsoft Windows オペレーティング・システムのコマンド・プロンプト、または UNIX オペレーティング・システムのコマンド・シェルから実行できます。また、バッチ・コマンドを使用するために stdin をリダイレクトでき、stdout をログ・ファイルにリダイレクトできます。

UNIX オペレーティング・システムでは、ppadmtool.sh スクリプトを使用してバッチ管理ユーティリティーにアクセスします。このスクリプトによって、適切な環境変数が設定され、ユーティリティーが開始されます。スクリプトに付加されたパラメーターは、管理ユーティリティーに渡されて処理されます。

IBM Cognos Analytics 環境が、IBM Cognos Analytics コンポーネント間の通信に SSL プロトコルを使用するように設定されている場合、ppadmtool ユーティリティーを使用するには、追加の設定手順を実行する必要があります。

予期しない問題が発生した場合でも完全に動作する環境に戻ることができるように、IBM Cognos Content Store のバックアップを頻繁に実行してください。

ppadmtool ユーティリティー

ppadmtool ユーティリティーを起動するには、Microsoft Windows オペレーティング・システムの場合は、インストール場所¥webapps¥utilities¥ppadmtool ディレクトリーから ppadmtool.bat ファイルをダブルクリックします。UNIX オペレーティング・システムの場合は、./ppadmtool.sh を実行します。

ppadmtool ユーティリティーを開始した後は、IBM Cognos PowerPlay サーバー、キューブ、レポートに対して次のコマンドを発行できます。

HELP

CONNECT <ディスパッチャー URI> USER <ユーザー名> PASSWORD <パスワード> NAMESPACE <ネームスペース ID>

CONNECT <ディスパッチャー URI> -i <ユーザー名> -j <パスワード> -k <ネームスペース>

ADD <タイプ> <名前> [PATH <パス>]

CD <フォルダー>

COPY <名前> <名前>

CRN REPLACE {(CUBENAME)} <古い値> <新しい値>

DISABLE <名前>

ENABLE <名前>

LIST [<フォルダー>]

MOVE <名前> <名前>

QUIT

REMOVE <タイプ> [PATH] <名前>

RENAME <ソース> <場所>

RESET <名前> <プロパティー>

RESET BELOW <名前> <プロパティー>

SET <名前> <プロパティー>=<値>

SHOW <名前>

EXIT

ファイル名

mdc ファイルの完全修飾パスを、ファイル拡張子も含めて指定します。

フォルダー

タイプ FOLDER のオブジェクト名を指定します。この FOLDER は、ポータル階層内のフォルダー・パスを表します。

名前

オブジェクト (キューブ、レポート、またはフォルダー) の名前を指定します。オブジェクトがフォルダーの場合は、フォルダー階層構造を使用できます。また、サーバーはルート・フォルダーとみなされます。

ネームスペース

ログオンに使用するユーザーが含まれているネームスペース ID を指定します。

<オブジェクト名>

キューブ・パッケージ、レポート、またはフォルダーの論理名を、ポータルで定義されているとおりに指定します。

<オプション>

「オプション」の説明に従って、コマンド・オプションを指定します。

パスワード

単純なサーバー・パスワード、または指定された Access Manager ユーザー名のパスワードのいずれかを指定します。ユーザー名に対してパスワードが必要ない場合は、パスワード・コマンドを指定しないでください。

パス

データ・ソース・ファイルの物理パスを指定します。使用しているオペレーティング・システム (UNIX または Windows) の書式を使用してください。

<プロパティー>

オブジェクト・プロパティーを (.) オブジェクト階層形式で指定します。プロパティーのリストを表示するには、SHOW コマンドを使用します。

サーバー

PowerPlay サーバーの名前または IP アドレスを指定します。

タイプ

オブジェクトのタイプを指定します。タイプは PACKAGE、REPORT、または FOLDER のいずれかです。

<ユーザー名>

ログオンに使用するユーザー名を指定します。

<値>

プロパティーの値を指定します。

表記規則

ファイル・パスまたは (オブジェクトがフォルダーのときに) name 変数を入力する場合、ドット (.) は現在のフォルダー、2 つのドット (..) は親フォルダー、スラッシュ (/) はルート・フォルダーを表します。このルート・フォルダーはサーバーです。例えば、次のスクリプトはサーバー"hp_srv"上のオブジェクトをすべて使用不可にします。

```
ppadmtool
> connect hp_srv
> disable ./
> exit
```

スペースを含むファイル名またはパスを入力するには、ファイル名全体またはパス全体を引用符 (") で囲みます。次に例を示します。

```
SHOW 『great outdoors』
COPY ../gnt 『/CF systems/great outdoors』
```

また、ファイル入出力にリダイレクトを使用することもできます。

```
ppadmtool < ../adm/daily_update.txt > check.log
```

コマンド

バッチ管理ユーティリティーを使用すると、ブラウザー・セッションで IBM Cognos Administration を使用する代わりに、IBM Cognos PowerPlay の管理コマンドを、Microsoft Windows オペレーティング・システムのコマンド・プロンプト、または UNIX オペレーティング・システムのコマンド・シェルから実行できます。

ADD

接続しているサーバーに新しいオブジェクトを追加します。PATH はデータ・ソースを示します。次の例は、接続しているサーバーに"Great Outdoors"キューブを追加します。このコマンドは、IBM Cognos Analytics 内にデータ・ソースとパッケージを作成します。

```
ADD CUBE "Great Outdoors" PATH "F:/cubes/great outdoors.mdc"
```

タイプを指定しないと、オブジェクトはキューブとみなされます。

CONNECT

IBM Cognos PowerPlay サーバーに接続します。次の例は、Default ネームスペースからユーザー名 JuliaX としてパスワード neptune を使用し、サーバー *cognos_server_name* に接続します。

```
CONNECT http://cognos_server_name:9300/p2pd/servlet/dispatch
USER JuliaX PASSWORD neptune NAMESPACE Default
```

USER、PASSWORD、および NAMESPACE の代わりに -i、-j、および -k を使用することもできます。この場合、例は次のようになります。

```
CONNECT http://cognos_server_name:9300/p2pd/servlet/dispatch
-i JuliaX -j neptune -k Default
```

CD

現在のフォルダーを変更します。コマンド行プロンプトは、現在のフォルダーと、そのルート・フォルダーからのパスを表示します。次の例は、現在のフォルダーを『/global networking/finances』 から 『/global networking/hub product/marketing』 に変更します。わかりやすいように、例ではプロンプトも含めています。

global networking /finances> CD 『../hub products/marketing』 global networking/hub products/marketing>

COPY

オブジェクトとそれに関連する上書きされたプロパティーのコピーを新しいオブジェクトに作成します。次の例は、gnt レポートを、親フォルダーから 『/CF systems』 フォルダーにコピーし、新しいオブジェクトに 『great outdoors』 という名前を付けます。

```
COPY ../gnt 『/CF systems/great outdoors』
```

CRN REPLACE CUBENAME

キューブ・パッケージやレポートすべてのパッケージ名のうち、現在のキューブ名に一致し、かつゲートウェイが現在のサーバーのゲートウェイと同じであるキュー

ブの名前を変更します。次の例では、現在のゲートウェイにある"Great Outdoors"という名前のオブジェクトをすべて"Sample Cube"という名前に変更します。

```
CRN REPLACE CUBENAME "Great Outdoors" "Sample Cube"
```

DISABLE

パッケージのプロパティー・ページ内の無効チェック・ボックスをオンにします。このプロパティーにはポータルからアクセスできます。オブジェクトが無効化されると、このエントリーに対する書き込み権限のないユーザーはそのオブジェクトにアクセスできません。エントリーはポータルに表示されません。無効になったエントリーに対するアクセス権が与えられると、エントリーの隣に無効を示すアイコンが表示されます。次の例は、オブジェクト"Finance"を使用不可に設定します。

```
DISABLE Finance
```

次の例は、オブジェクト"Great Outdoors"を使用不可に設定します。

```
DISABLE "Great Outdoors"
```

ENABLE

パッケージのプロパティー・ページ内の無効チェック・ボックスをオフにします。

```
ENABLE "Sales 2009"
```

EXIT

ppadmtool ユーティリティーを終了します。

HELP

ppadmtool コマンドのリストを表示します。

LIST

指定したフォルダーに含まれる全オブジェクトをリスト表示します。次の例は、"/docs/recent reports"フォルダーに含まれる全オブジェクトをリスト表示します。

```
LIST "/docs/recent reports"
```

フォルダーを指定しなかった場合は、現在のフォルダーに含まれる全オブジェクトがリスト表示されます。

MOVE

オブジェクトとそれに関連する上書きされたプロパティーを新しいオブジェクトに移動します。移動するオブジェクトのターゲットの場所と名前の両方を指定する必要があります。ターゲットの場所が存在しない場合は作成されます。次の例は、新しいオブジェクト"bls"を"/new/"フォルダーに作成します。

```
MOVE gnt "/new/bls"
```

REMOVE

実際のファイルを削除することなく、オブジェクトまたはそのデータ・ソース・ファイルへの参照を削除します。この操作によってすべての参照が削除されると、オブジェクトは完全に削除されます。次の例は、接続しているサーバーからキューブ"new_sales"を削除します。

```
REMOVE CUBE new_sales
```

次の例は、オブジェクト"general networks"のデータ・ソース・ファイルへの参照を削除します。

```
REMOVE PATH "general networks"
```

オブジェクトがフォルダーの場合は、すべての子オブジェクトも削除されます。タイプを指定しないと、オブジェクトはキューブとみなされます。

RESET

オブジェクトで選択したプロパティーを、上位レベルにあるフォルダーから継承されたプロパティーにリセットします。上位レベルにフォルダーがない場合、プロパティーはそのオブジェクトのデフォルト・プロパティーに設定されます。次の例は、オブジェクト"Great Outdoors"の値"LA"を、フォルダーのデフォルト値にリセットします。デフォルト・フォルダーがない場合は、オブジェクト・タイプのデフォルト値にリセットします。

```
RESET "Great Outdoors" LA
```

RESET BELOW

フォルダーおよびそのサブフォルダーの内容のプロパティーはリセットしますが、フォルダー自身のプロパティーはリセットしません。次の例は、ルート・フォルダーの内容の値"Published"を、フォルダーに指定されたデフォルト値にリセットします。フォルダーのデフォルト値がない場合は、オブジェクト・タイプのデフォルト値にリセットします。

```
RESET BELOW / Published
```

SET

オブジェクトにプロパティー値を割り当てます。プロパティーでは、大文字と小文字が区別されます。プロパティー名は、使用されているとおりに正確に入力します。オブジェクトのプロパティーを表示するには、SHOW オプションを使用します。

- 次の例は、"Great Outdoors"キューブの最大プロセス数を"5"に設定する。

  ```
  SET
  "Great Outdoors"
  .PWQ.Control.MaxProcess=5
  ```

- サーバー上の全オブジェクトに対してプロパティーを設定するには、オブジェクト名の代わりにスラッシュ (/) を挿入する。次の例は、ルート・フォルダー (サーバー) のプロパティー"PWQ.Control.MaxProcess"を"5"に設定します。

  ```
  SET / .PWQ.Control.MaxProcess=5
  ```

- 特定のユーザーの「個人用コンテンツ」のコンテンツに対するプロパティーを設定するには、ユーザーのプロパティーから検索パスを使用して場所を指定する。次の例は、プロパティーを設定します。

  ```
  SET CAMID(...
  some cam id )/folder[@name='My content'] <some property>=<some
  value>
  ```

SHOW

指定したオブジェクトの全プロパティーを表示します。次の例は、"Sales 2009"オブジェクトの全プロパティーを表示します。

```
SHOW "Sales 2009"
```

次の例は、"testfolder2"オブジェクトの"FLD.Control.MinProcess"プロパティーを表示します。

```
SHOW /testfolder2 .FLD.Control.MinProcess
```

サポート対象外のコマンド

次のコマンドがサポート対象外となり、IBM Cognos PowerPlay バージョンの ppadmtool で使用できなくなりました。

ADD DS <タイプ> <名前> DS <ミラー>

CRN REPLACE GATEWAY

KILL <名前>

NOTIFY {(CUBE_OBJECT <オブジェクト名> | CUBE_FILE <ファイル名>)} EVENT = UPDATE [ON_ERROR IGNORE | FAIL]

PUBLISH <名前>

PUBLISHLINK <名前>

REMOVEDS <名前> DS <ミラー>

REMOVELINK <名前>

変更されたコマンド

IBM Cognos PowerPlay バージョンの ppadmtool は次のように変更されました。

- 現在、IBM Cognos Analytics ディスパッチャー URI はサーバー名として使用される。ディスパッチャーの情報を Cognos Configuration から取得できます。
- サーバーへの接続に認証が必要な場合は、接続に使用するユーザー名、パスワード、およびネームスペース ID を指定する必要がある。この情報を指定しない場合、入力は要求されません。匿名アクセスを使用して接続している場合、認証は必要ありません。
- 接続に使用しているユーザー名にパスワードが設定されていない場合は、接続コマンドの一部として PASSWORD パラメーターを追加しない。IBM Cognos Series 7 の ppadmtool では、パスワードを指定しない場合は、PASSWORD パラメーターにテキストを入力せずに引用符を使用していました。
- プログラムを最初に呼び出すとき、追加のコマンドを引数として発行できない。例えば、次のコマンドは無効です。

  D:¥ppadmtool>connect "http://wottppeslab3:9300/p2pd/servlet/dispatch" user dan password dan namespace s7 add cube cubename path d:¥cubes¥ppweb.mdc

  最初にサーバーに接続し、その後でコマンドを発行する必要があります。
- CRN REPLACE CUBENAME で、サーバー上の一致する全キューブ名の置換は行われない。コマンドが"XY"というフォルダーから実行された場合は、"XY"のオブジェクトのみが変更されます。

- Add で、追加するオブジェクトが IBM Cognos PowerCube の場合は、Cognos Analytics ポータルでデータ・ソースとパッケージが作成される。

PowerPlay サーバー・バッチ管理ユーティリティーに対して SSL を使用するための設定要件

IBM Cognos Analytics が、IBM Cognos Analytics コンポーネント間の通信に SSL (Secure Sockets Layer) プロトコルを使用するように設定されている場合、PowerPlay サーバー・バッチ管理ユーティリティーを使用するには、次の設定を実行する必要があります。この設定は、SSL が Web サーバーでのみ有効化されている場合は必要ありません。次の 3 つの手順があります。

- SSL 証明書を抽出する
- 証明書の鍵ストアを作成する
- ppadmintool.bat ファイルのパラメーターを変更する

SSL 証明書を抽出する

SSL 証明書を抽出して、IBM Cognos PowerPlay サーバー・バッチ管理ユーティリティーを使用します。

手順

1. <インストール場所>¥bin ディレクトリーに移動します。
2. 次のコマンドを入力します。

   ThirdPartyCertificateTool.bat -java:local -E -T -r cacert.cer -k ..¥configuration¥signkeypair¥jCAKeystore -p password

タスクの結果

CA 証明書 cacert.cer が <インストール場所>¥bin ディレクトリーにエクスポートされます。これで、証明書の鍵ストアを作成できるようになりました。

証明書の鍵ストアを作成する

SSL 証明書を抽出すると、証明書の鍵ストアを作成して IBM Cognos PowerPlay Server バッチ管理ユーティリティーを使用することができます。

手順

1. <インストール場所>¥bin¥jre¥version¥bin ディレクトリーに移動します。
2. 次のコマンドを入力します。

   keytool.exe -import -file <インストール場所>¥bin¥cacert.cer -keystore <インストール場所>¥webapps¥utilities¥ppadmtool¥MyKeyStore -storepass <パスワード> -alias <IBM Cognos 別名>

タスクの結果

鍵ストア・ファイル MyKeyStore が <インストール場所>¥webapps¥utilities¥ppadmtool ディレクトリーに作成されます。これで、バッチ管理ユーティリティーのパラメーターを変更できるようになりました。

バッチ管理ユーティリティーのパラメーターを変更する

証明書の鍵ストアを作成すると、IBM Cognos PowerPlay Server バッチ管理ユーティリティーのパラメーターを変更することができます。

手順

1. <インストール場所>¥webapps¥utilities¥ppadmtool ディレクトリーから、テキスト・エディターで ppadmtool.bat を開きます。
2. 次の行を見つけます。

   %_RUNJAVA% -cp %CP%%J_OPTS% com/spotonsystems/cubeadmin/cli/PpAdmin%*
3. 鍵ストアとパスワードを識別するために行を次のように編集します。

   %_RUNJAVA% -cp %CP% %J_OPTS% -Djavax.net.ssl.trustStore=MyKeystore - Djavax.net.ssl.trustStorePassword=<パスワード> com/spotonsystems/cubeadmin/cli/PpAdmin %*

タスクの結果

IBM Cognos Analytics インストールが、SSL プロトコルを使用するように設定されている場合は、ppadmtool ユーティリティーで CONNECT コマンドを次の形式で使用します。

CONNECT https://<サーバー名>:<ポート>/p2pd/servlet/dispatch

付録 A. トラブルシューティング

ここで説明するトラブルシューティングの参考情報と解決方法は、IBM Cognos PowerPlay の使用時に発生した問題を解決する手段として利用してください。

発生する可能性がある問題は、次の分野にまとめられています。また、ログ・ファイルにも問題の解決に役立つ情報が記録されます。

IBM Cognos PowerPlay Administration での作業に関する問題

このセクションでは、IBM Cognos PowerPlay Administration での作業時に発生する可能性がある問題について説明します。

システム・ステータスまたは処理状況のリストに PowerPlay 要求が表示されない

IBM Cognos Administration でシステム・ステータスまたは処理状況のリストを表示した場合に、一部の IBM Cognos PowerPlay 要求が表示されません。

- 5 秒以内に完了する PowerPlay Studio からの要求は、PowerPlay サービスのシステム・ステータスに表示されません。
- 要求の処理に必要な時間の長さにかかわらず、PowerPlay Client からの要求は、システム・ステータス、現在の処理、過去の処理、または予定されている処理に表示されません。

PowerPlay の処理状況の一部がログに記録されない

ログ・ファイルまたはログ・データベースを表示したときに、追跡が必要な IBM Cognos PowerPlay の処理状況に関する情報が表示されない場合は、詳細な情報が記録されるようにログ記録レベルを上げることができます。

PowerCube のファイル名に簡体字中国語の文字が含まれる場合の接続エラー

IBM Cognos PowerPlay が IBM AIX® コンピューターにインストールされている場合は、ファイル名に簡体字中国語の文字が含まれている PowerCube に接続しようとすると、次のエラーが発生する可能性があります。このエラーは、データ・ソース接続のテスト時や、PowerCube に基づいたパッケージを開くときに発生することがあります。

```
キューブを開けませんでした。

PDS-PPE-0084 使用できるエラー・メッセージがありません。
(PDS-PPE-0084 No error message is available.)

{0}ppdsweb/source/CExecCrosstab.cpp(1313): CPPWebException: CCL_THROW:

CExecCrosstab::Execute
```

このエラーを防ぐには、キューブの名前を英語の文字を使用するように変更し、キューブ名からネイティブ文字を削除します。または、データ・ソース接続の作成時

に、簡体字中国語 (GB2312) のコード・ポイントに UTF-8 文字を使用する方法もあります。これらの文字は IBM Cognos Analytics ポータルでは正しく表示されませんが、接続は正常に機能します。

IBM Cognos PowerPlay Studio での作業に関する問題

このセクションでは、IBM Cognos PowerPlay Studio での作業時に発生する可能性がある問題について説明します。

PowerPlay Studio で計算を挿入するとエラーが発生する

計算の挿入後、ブラウザーからエラーが表示され、計算処理が正しく完了しない場合があります。この問題は、Microsoft Internet Explorer 7 と Mozilla Firefox で発生します。

現時点では、Internet Explorer 7 と Mozilla Firefox でこの問題を回避する方法はありません。Internet Explorer 6 の使用時には、この問題は発生しません。

スケジュールされたレポートの E メールでリンクを開いたときにエラーが発生する

ユーザーがレポートの実行をスケジュールし、配信オプションとして E メールを要求した場合、最後に送信された E メールにおいてのみ、有効なリンクが保持されます。それ以前の E メールに記載されているリンクは、すでに存在しなくなったレポートを参照しているため、クリックしても空白ページが表示されるか、またはページが見つからないというエラーが表示されます。

日本語でグラフ・タイトルを編集中にページ・エラーが発生する

グラフ・タイトルのフォントを日本語のフォントに設定すると、エラーが発生することがあります。このエラーは、UTF-8 以外の日本語フォントを選択すると発生します。

日本語のフォントに UTF-8 を選択すると、この問題は解決します。

長い文字列が途中で切り詰められる

行の折り返しは、単語間にスペースを使用する言語でのみ機能します。

中国語、韓国語、日本語、タイ語などの言語で行を強制的に折り返すには、文字列内で折り返しに適当な場所に 1 バイトのスペースを挿入します。

グラフに表示されるヘブライ語のテキスト

グラフ要素の中には、双方向のヘブライ語テキストが、「視覚的」順序ではなく「論理的」順序で表示されることがあります。詳細については、http://people.w3.org/rishida/scripts/bidi/ を参照してください。

PDF へのエクスポート後に円グラフにある"その他"カテゴリーのラベルが実際のカテゴリー名に変更される

IBM Cognos PowerPlay Studio で円グラフを作成すると、"その他"カテゴリーが生成されて凡例に表示されます。PDF にエクスポートすると、凡例では"その他"カテゴリーの代わりに正しいカテゴリー名が表示されます。これは製品の仕様です。

表示が読めないあるいは正しく表示されない

Microsoft Internet Explorer 7 の Web ブラウザーを使用している場合、ズーム設定が大きいと、表示が読めなくなってしまう場合があります。例えば、一部の表示要素が重なってしまうことがあります。

正しく表示するには、Internet Explorer 7 のズーム設定を小さくします。

PowerPlay Studio レポートを保存するときに Cognos Application Firewall のエラーが発生する

IBM Cognos Analytics のインストールで Cognos Content Database が使用されている場合は、PowerPlay Studio レポートを保存しようとすると次のエラーが発生します。

```
An error has occurred.

DPR-ERR-2079 Firewall Security Rejection. Your request
was rejected by the security firewall.

CAF rejection details are available in the log. Please
contact your administrator.
```

このエラーを防ぐには、IBM Cognos Analytics の Content Store に対してサポートされている別のデータベースを使用してください。

付録 B. 日本語 Shift-JIS の文字マッピング

名前に日本語文字が含まれているレポートやキューブを移行すると問題が発生することがあります。これは、Shift-JIS 文字と Unicode 文字のバイト・シーケンスのマッピングを規定する業界標準が存在しないためです。

IBM Cognos Series 7 PowerPlay Enterprise Server では、オペレーティング・システム固有の Shift-JIS マルチバイト文字エンコーディング方式を使用して日本語文字が保存されます。IBM Cognos Analytics では、すべての文字が内部的に Unicode で保存されます。

IBM Cognos Series 7 から IBM Cognos Analytics への移行時に問題が発生することがあります。これは、Shift-JIS から Unicode への変換と Unicode から Shift-JIS への変換で異なるソフトウェアが使用されるためです。Shift-JIS から Unicode および Unicode から Shift-JIS への変換で同じマッピングが使用されないと、レポート名やキューブ名が一致しなくなり、アイテムの移行に失敗したり、移行後のレポートを実行できなくなります。

エンコーディング・マッピングを行う可能性のあるコンポーネントは次のとおりです。

- IBM Cognos Series 7 Migration サービス

  IBM Cognos Series 7 Migration サービスのデフォルトでは、組み込みライブラリーを使用した文字のエンコードとデコードが行われて Shift-JIS と Unicode がマッピングされます。マッピングの再設定が必要になる場合もあります。

- IBM Cognos Series 7 PowerPlay Enterprise Server Administration Tool (ppsrvadm)

  このツールから IBM Cognos Series 7 PowerPlay コンテンツを IBM Cognos Analytics に発行した場合、このツールを起動した Java™ Virtual Machine (JVM) に含まれている文字変換ライブラリーにより PowerPlay 7 のキューブ名やレポート名への参照が Unicode に変換されます。このようなコンテンツを IBM Cognos Analytics に移行する場合は、IBM Cognos Series 7 Migration サービスで同じマッピング・セットを使用してキューブ名やレポート名を Shift-JIS に再変換し、Unicode に戻す必要があります。

- サーバー間のファイル移動に使用されるファイル転送プログラム

  サーバー間でキューブやレポートの転送を行う場合、処理の過程でファイル・システムのエンコーディングに変更があると、ファイル転送プログラムで選択された文字マッピングによる影響を受けます。例えば、日本語ロケール JP.PCK を使用する Solaris オペレーティング・システム上の IBM Cognos Series 7 サーバーからコンテンツを移行するとします。この場合、ファイル名は Solaris オペレーティング・システム版の Shift-JIS を使用してディスクに保存されています。これらのファイルを Unicode ベースのロケールを使用する新しいサーバーに転送した場合、ファイル転送プログラムで使用された文字マッピングによる影響を受けます。

- ファイルの読み取りと書き込みに使用されるオペレーティング・システムの API 関数

  IBM Cognos Series 7 サーバーのファイル・システムで使用している文字セットが、IBM Cognos Series 7 PowerPlay Enterprise Server が実行されているロケールで使用している文字セットと異なる場合、ファイル・システムで選択された文字マッピングによる影響を受けます。例えば、IBM Cognos Series 7 PowerPlay Enterprise Server が NTFS ファイル・システムを使用する日本語ロケールの Windows で実行されている場合、PowerPlay は Window のコード・ページ 932 (Microsoft 版の Shift-JIS) で実行されていることになります。しかし、ファイル名は Unicode でディスク上に保存されます。2 つのエンコーディング間のマッピングは実行時に行われます。

- IBM Cognos Analytics サーバー

  IBM Cognos Analytics サーバーは、IBM Cognos Analytics を実行するために使用される JVM を利用して文字マッピングを行います。IBM Cognos Analytics と ppsrvadm で同じ JVM ベンダーを使用していても、一部の Shift-JIS 文字については、2 台のサーバーで異なる Unicode コード・ポイントにマッピングされることがあります。

エンコード・ポイントのうち、同一の文字マッピングを採用していないものがある場合は、キューブ名とレポート名を変更して問題を引き起こす文字を解決するか、文字の再設定を行って、同一のマッピングが使用されるようにしてください。

問題の原因となる文字

次の表に、問題を引き起こす可能性のある Shift-JIS 文字を示します。アスタリスク (*) の付いた文字のマッピングはまれであり、発生することはほとんどありません。

表 25. 移行時に問題を引き起こす可能性のある *Shift-JIS* 文字

JIS バイト	**Shift-JIS** バイト	**Unicode** コード・ポイント	説明
0x5C	0x5C	U+005C u+00A5	バックスラッシュ 円記号
0x7E	0x7E	U+007E U+203E	チルド 上線
0x2131	0x8150	U+203E* U+FFE3	上線 全角長音記号
0x213D	0x815C	U+2014 U+2015	Em ダッシュ 水平線

表 25. 移行時に問題を引き起こす可能性のある *Shift-JIS* 文字 (続き)

JIS バイト	**Shift-JIS** バイト	**Unicode** コード・ポイント	説明
0x2140	0x815F	U+005C* U+FF3C	バックスラッシュ 全角バックスラッシュ
0x2141	0x8160	U+301C U+FF5E	波ダッシュ 全角チルド
0x2142	0x8161	U+2016 U+2225	双柱 平行
0x215D	0x817C	U+2212 U+FF0D	マイナス記号 全角ハイフン・マイナス
0x216F	0x818F	U+00A5* U+FFE5	円記号 全角円記号
0x2171	0x8191	U+00A2 U+FFE0	セント記号 全角セント記号
0x2172	0x8192	U+00A3 U+FFE1	ポンド記号 全角ポンド記号
0x224C	0x81CA	U+00AC U+FFE2	否定記号 全角否定記号

Shift-JIS 文字から Unicode へのマッピングの再設定

IBM Cognos Series 7 Migration サービスで使用する Shift-JIS と Unicode の間のマッピングを調整するには、s7_location¥migs7 ディレクトリーに shift-jis.xml という名前の設定ファイルを配置します。

このファイルの書式は、IBM Cognos Analytics ラウンド・トリップ・セーフティー Configuration ユーティリティーで使用される書式と同じです。

ラウンド・トリップ・セーフティー Configuration ユーティリティーの詳細と、このファイルが IBM Cognos Analytics の実行時の動作にどのように作用するかについては、IBM Cognos Analytics「管理およびセキュリティー・ガイド」を参照してください。

ヒント: ラウンド・トリップ・セーフティー Configuration ユーティリティーを使用して"shift-jis.xml"ファイルを生成し、このファイルを手作業で編集すると簡単に調整することができます。

始める前に

元のバージョンに戻す場合に備えて、既存の"shift-jis.xml"ファイルをバックアップしておくことを推奨します。

手順

1. ラウンド・トリップ・セーフティー Configuration ユーティリティーを起動します。
   - Microsoft Windows オペレーティング・システムでは、`<インストール場所>¥bin¥rtsconfig.bat` をダブルクリックします。
   - UNIX オペレーティング・システムでは、`<インストール場所>/bin/rtsconfig` コマンドを実行します。
2. 「変換」タブで、リスト表示されている Unicode 文字をどのように Shift-JIS に変換するかを指定します。
3. 「代替」タブで、特定の Shift-JIS 文字をどのように Unicode に変換するかを指定します。
4. 変更を保存します。

   `<インストール場所>¥bin¥shift-jis.xml` ファイルが更新されます。
5. 更新された shift-jis.xml ファイルを `<Series 7 の場所>¥migs7` ディレクトリーにコピーします。
6. ファイルを手作業で編集する場合は、`<Series 7 の場所>¥migs7` ディレクトリーにあるファイルを XML エディターまたはテキスト・エディターで開き、必要な変更を加えます。
7. PYCODECS_MAP_DIR という名前の環境変数を作成し、`<Series 7 の場所>¥migs7` フォルダーを指すように設定します。

   例えば、`C:¥Program Files¥Cognos¥cer5¥migs7` のようになります。

   注: Windows の場合、この環境変数をユーザー環境変数ではなくシステム環境変数にして、IBM Cognos Series 7 Migration サービスからアクセスできるようにします。
8. IBM Cognos Series 7 Migration サービスを一度停止してから、再開します。
   - Windows では、`<Series 7 の場所>` ディレクトリーに移動して、次のコマンドを使用します。

     ```
     configure.exe --stop
     ```

     サービスを再起動するには、次のコマンドを使用します。

     ```
     configure.exe --start
     ```
   - UNIX オペレーティング・システムでは、`<Series 7 の場所>/migs7` ディレクトリーに移動して、次のコマンドを使用します。

```
./configure --stop
```

サービスを再起動するには、次のコマンドを使用します。

```
./configure --start
```

タスクの結果

注: <インストール場所>¥bin ディレクトリーに shift-jis.xml ファイルのコピーを残したままにしておくと、IBM Cognos Analytics がエンド・ユーザーや変換メカニズムを持たないデータベースと対話する際の実行時動作に影響することがあります。この動作を変更しない場合は、<インストール場所>¥bin¥folder にある shift-jis.xml ファイルをバックアップのバージョンに戻します。

手作業による"shift-jis.xml"ファイルの編集

より自由に独自のマッピングを設定するには、"shift-jis.xml"ファイルを手作業で編集します。Round Trip Configuration ユーティリティーでは、一般的に問題が発生する文字のマッピングしか設定できません。

"shift-jis.xml"ファイルを手作業で編集した場合、ラウンド・トリップ・セーフティー Configuration ユーティリティーがファイルを正しく解析できない場合があります。そのため、最初のマッピング・ファイルの生成はラウンド・トリップ・セーフティー Configuration ユーティリティーで行い、そのファイルを <Series 7 の場所>¥migs7 にコピーして手作業で編集することを推奨します。

ヒント: ラウンド・トリップ・セーフティー Configuration ユーティリティーを使用しないで、手作業で"shift-jis.xml"ファイルを作成することも可能です。

"shift-jis.xml"ファイルを編集するには、このファイルの書式に関する知識が必要です。次の例は、Unicode 文字 U+2116 を Shift-JIS 0x8782 に変換することを指定しています。

```
<conversion>
  <entry id="1">
   <unicode>U+2116</unicode>
   <native selected="true">0x8782</native>
   <native>0xFA59</native>
   <references>
    <reference>9333</reference>
    <reference>9334</reference>
   </references>
  </entry>
```

次の例は、U+00A2 または U+FFE0 にマッピングできる Shift-JIS シーケンスを、U+FFE0 にマッピングすることを指定しています。

```
<substitution>
  <entry id="1">
   <codepoint value="U+00A2" replaceWith="U+FFE0"/>
   <codepoint value="U+FFE0" replaceWith="U+FFE0"/>
  </entry>
```

Shift-JIS 文字の移行時の問題のトラブルシューティング

このセクションでは、"shift-jis.xml"ファイルを使用して問題を引き起こしやすい Shift-JIS 文字を移行する際の一般的な問題について説明します。

"shift-jis.xml"ファイルがマッピングに作用していないように見える

"shift-jis.xml"ファイルを編集しても、マッピングに作用しません。

この問題を解決するには、次のいずれかを実行します。

- <Series 7 の場所>¥migs7¥rtssubstitution.dat ファイルと <Series 7 の場所>¥migs7¥rtsconversion.dat ファイルが作成されていて、これらのファイルが <Series 7 の場所>¥migs7¥shift-jis.xml ファイルよりも新しいことを確認する。そうでない場合は、IBM Cognos Series 7 Migration サービスを一度停止してから、再開します。
- .dat ファイルが IBM Cognos Series 7 Migration サービスを実行しているユーザー ID の権限で読み取り可能であることを確認する。例えば Windows の場合、Local System アカウントにはこのファイルに対する読み取り権限がない場合があります。
- システム環境変数 PYCODECS_MAP_DEBUG を「1」に設定してデバッグ・ログ記録を有効にし、IBM Cognos Series 7 Migration サービスを再開する。これにより %PYCODECS_MAP_DIR%¥PyCodec.txt というテキスト・ファイルが作成されるので、問題の診断に役立ててください。

移行中にマルチバイトに関するエラー・メッセージが表示される

移行中に次のエラー・メッセージが表示されます。

```
正しくないマルチバイト・コード・シーケンス: <バイト・シーケンス名>
(Illegal multibyte code sequence: <Byte sequence name>)
```

この問題を解決するには、次のいずれかを実行します。

- "shift-jis.xml"ファイルを作成した場合は、該当するバイト・シーケンスがファイル内に存在するかどうかを確認する。送り (代替) と戻り (変換) の両方のマッピングが定義されていることを確認します。例えば、「U+2015 -> U+2014」の代替を定義した場合、「U+2014 -> 0x815C」の変換も定義する必要があります。
- PYCODECS_MAP_DEBUG を有効にして、マッピングが期待どおりにロードされていることを確認する。

レポート用のキューブ・マッピングが見つからない

問題を引き起こしやすい文字がキューブ・パスに含まれているため、移行中にレポート用のキューブ・マッピングを見つけることができません。

この問題を解決するには、キューブ・パスに含まれる文字のうち、問題を引き起こしやすい文字一覧に含まれる各文字について、"shift-jis.xml"ファイルでまず一方向へのマッピングを試し、次に逆方向へのマッピングを試してみます。

例えば、ある .ppx レポートの名前が Shift-JIS バイト・シーケンスで「81,61,2e,70,70,78」だとします。Unicode では、このレポート名は 『{DOUBLE

VERTICAL LINE}.ppx』 (2016, 002e, 0070, 0070, 0078) または 『{PARALLEL TO}.ppx』 (2225, 002e, 0070, 0070, 0078) と解釈されます。このレポートを移行するには、2016 と 2225 のマッピングの上書きが必要になります。次のいずれかを実行します。

- 次のマッピングを追加して IBM Cognos Series 7 Migration サービスで 2016 が使用されるように設定する

  代替: 2225 -> 2016

  変換: 2016 -> 81, 61

  変換: 2225 -> 81, 61
- マッピングが機能しない場合は、代わりに 2225 を使用する

  代替: 2016 -> 2225

  変換: 2016 -> 81, 61

  変換: 2225 -> 81,61

注**:** "shift-jis.xml"ファイルを編集した場合は、そのつど Migration サービスを再起動して移行を再実行する必要があります。

異なる移行ソースを使用すると、文字が正しく移行されない

IBM Cognos PowerPlay Enterprise Server を移行ソースとして使用したときに正しく移行された文字が、IBM Cognos Analytics を移行ソースとして使用した場合に正しく移行されません (逆の場合も同様)。

この問題を解決するには、移行ソースのタイプごとに異なる"shift-jis.xml"を定義します。"shift-jis.xml"ファイルを変更した場合は、そのつど IBM Cognos Series 7 Migration サービスを再起動して移行を再実行する必要があります。

UNIX で ASCII 以外の文字を使用したキューブを移行する場合の問題

IBM Cognos Series 7 PowerPlay Enterprise Server サービスで ASCII 文字以外のパス名を使用して PowerCube にアクセスしている場合に、別の文字セットを使用するロケールで IBM Cognos Analytics サーバーが実行されている場合、IBM Cognos Analytics サーバーは参照されている PowerCube をディスク上で見つけることができません。

例えば、PPES サービスでは Shift-JIS でエンコードされた日本語の名前が ja_JP.PCK という Solaris オペレーティング・システムのロケールで使用されていて、IBM Cognos Analytics サーバーは ja_JP.UTF-8 というロケールで実行されているとします。この場合、この PowerCube に依存するレポートの移行は失敗し、次のようなエラー・メッセージが表示されます。

MGD-msg-0424 IBM Cognos Analytics で次のデータ・ソースを作成できません: cubes/Japanese/<日本語の文字>

MGD-msg-0422 Migdeploy 例外: MGD-msg-0432 無効なデータ・ソース・パラメーターです。物理キューブへのパスが指定されていません。

問題を回避するための手順は、IBM Cognos Series 7 と同じロケール設定を IBM Cognos Analytics で使用するかどうかによって異なります。

Series 7 と同じロケール設定を IBM Cognos Analytics で使用する場合は、Series 7 PPES を起動するときに使用されている言語環境変数と一致するように言語環境変数を設定します。

異なるロケール設定を IBM Cognos Analytics で使用する場合は、使用するロケールのエンコードで PowerCube をコピーします。2 つの異なるエンコードを使用してシェルのコマンド・プロンプトにファイル名を入力しても正しく動作しない可能性があるため、カスタム・シェルか他のファイル・コピー・ユーティリティーを使用する必要がある点に注意してください。

手順

1. Series 7 PPES の開始時に使用する変数に一致する言語変数を設定するには、以下の手順を実行します。
   - IBM Cognos Series 7 PPES の起動時に使用した変数と一致するように、LANG、LC_ALL、LC_CTYPE (該当する場合) の各環境変数を設定します。

     例えば、LANG= ja_JP.UTF-8 と指定します。
   - *install_location*/bin/cogconfig.sh を起動します。
   - IBM Cognos サービスを再開します。
   - 移行をやり直します。
2. ロケールのエンコードの下に PowerCube のコピーを作成するには、以下を実行します。
   - ディスクにある PowerCube の .mdc ファイルを、古いロケールのエンコードの名前から、新しいロケールのエンコードの名前にコピーします。

     例えば、"cubes/Japanese/<日本語の文字>.mdc"ファイルを ja_JP.PCK から ja_JP.UTF-8 に移動するには、

     ".../cubes/Japanese/
     ¥x93¥xfa¥x96{¥x8c¥xea¥x82¥xcc¥x83L¥x83¥x85¥x83u.mdc"

     というファイルを

     ".../cubes/Japanese/
     ¥xe6¥x97¥xa5¥xe6¥x9c¥xac¥xe8¥xaa¥x9e¥xe3¥x81¥xae¥xe3¥x82¥xad¥
     xe3¥x83¥xa5¥xe3¥x83¥x96.mdc" という新しいファイル名にコピーします。
   - 移行をやり直します。

同じ名前の **Content Manager** レポート・オブジェクトがすでに存在するために移行できない

移行タスクを実行する際に、同じ名前のオブジェクトがすでに存在するので移行を続行できないというエラーが、Content Manager によって実行履歴の詳細に報告されます。その時点で Content Manager データベースをクエリーしても、そのオブジェクトは見つかりません。

この問題は、Content Manager が Microsoft SQL Server データベースである場合にのみ発生し、オブジェクト名の文字の 1 つに異形が使用されているオブジェクトが Content Manager データベースに存在するために発生します。例えば、移行しようとしているオブジェクトの名前に Unicode 文字 U+00A2 (セント記号) が含まれていて、Unicode 文字 U+FFE0 (全角のセント記号) を名前に使用するオブジェクトがデータベースに存在する場合があります。

この問題を解決するには、移行する前に次のいずれかを実行します。

- Content Manager データベースで、移行を停止しているオブジェクトを削除する。
- Latin1_General_CI_AS ではなく Latin1_General_CI_AS_KS_WS の照合順序を使用して、Content Manager データベースを再作成する。

  半角と全角が区別される文字 (_WS) を含む照合順序を使用して Content Manager データベースを作成することにより、同じ文字の半角と全角の異形が名前に含まれるオブジェクトの競合を回避できます。

特記事項

本書は IBM が世界中で提供する製品およびサービスについて作成したものです。

この資料は IBM から他の言語で入手できる場合があります。ただし、これを入手するには、本製品または当該言語版製品を所有している必要がある場合があります。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。本書には、お客様が購入されたプログラムまたはライセンス資格に含まれない製品、サービス、または機能に関する説明が含まれる場合があります。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態で提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。 IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Software Group
Attention: Licensing
3755 Riverside Dr.
Ottawa, ON
K1V 1B7
Canada

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。 IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確証できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があり、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、 セッションごとの Cookie および持続的な Cookie を使用して、それぞれのお客様に関する以下の情報を収集する場合があります。

- 名前
- ユーザー名
- パスワード

目的は以下のとおりです。

- セッション管理
- 認証
- お客様の利便性の向上
- シングル・サインオン構成
- セッション管理、認証、お客様の利便性の向上およびシングル・サインオン構成以外の利用の追跡または機能上の目的

これらの Cookie を 無効にすることはできません。

この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人を特定できる情報を収集する機能を提供する場合、 お客様は、このような情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意の要求も含まれますがそれらには限られません。

このような目的での Cookie を含む様々なテクノロジーの使用の詳細については、IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメントのハイライト』(https://www.ibm.com/privacy/jp/ja/) および『IBM Software Products and Software-as-a-Service Privacy Statement』(http://www.ibm.com/software/info/product-privacy) を参照してください。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

［ア行］

移行
　AIX で ASCII 以外の文字を使用したキューブを移行する 64

［カ行］

監査データベース 31
管理 3
キューブ
　設定 6
キューブ、
　参照： PowerCube

［サ行］

サーバー・グループ 3
サンプル PowerCube
　設定 27
詳細設定
　PowerPlay 4, 5
設定
　キューブ 6
　ドリルスルー 6
　レポート 6
　ログ記録レベル 31

［タ行］

データベース
　ログ・メッセージのテーブル 34
テーブル
　ログ・メッセージのデータベース 34
トラブルシューティング
　同じ名前の CM レポート・オブジェクトが存在するために移行できない 65
　日本語文字 57
　AIX で ASCII 以外の文字を使用したキューブを移行する 64
　Shift-JIS 文字の移行時の問題 62
ドリルスルー
　詳細設定 4
　設定 6

［ナ行］

日本語文字 57
　Unicode へのマッピング 60

［ハ行］

はじめに v
分散インストール
　考慮事項 3

［マ行］

マッピング
　Shift-JIS から Unicode へ 57

［ラ行］

レポート
　設定 6
ログ
　メッセージのデータベース表 34
ログ記録
　監査データベース 31
ログ記録レベル
　設定 31

C

Content Manager データベース
　名前の競合のために移行できない 65

I

IBM Cognos Administration 3
Internet Explorer
　PowerPlay Studio の計算でのエラー 54

M

Mozilla Firefox
　PowerPlay Studio の計算でのエラー 54

P

PowerCube
　PowerPlay サンプル 27
PowerPlay 監査データベース 31
PowerPlay の詳細設定 4, 5

S

Series 7 PowerPlay 1
Series 7 PowerPlay からの移行 1
Shift-JIS 文字 57
    Unicode へのマッピング 60
shift-JIS 文字
    トラブルシューティング 62

U

Unicode
    Shift-JIS へのマッピング 60